

第一回館山市議会議定例會會議錄（第二号）

昭和五十八年三月十日（木曜日）午前十時

館山市役所議場

出席議員 二十三名

一番 神田 守隆	二番 石井 謀
四番 横溝 功	五番 福原 勤
七番 古賀 礼四郎	八番 石井 昌治
九番 松下 正己	一番 林 豊
二番 栗原 一雄	一番 近藤 好雄
四番 渡辺 昭夫	一番 伊藤 幸太郎
一七番 黒川 平治	一番 流山 源次郎
一九番 石井 輝久	二〇番 石井 武敏
二一番 吉田 勇治郎	二二番 藤田 益治
二四番 和田 一郎	二五番 五十嵐 昇
二六番 伊賀 多朗	二八番 安澤 徳順
二九番 安西 益男	

欠席議員 三名

二三番 菊井 敏博	二七番 石井 正
三〇番 山口 康	

出席説明員

第一号から教育委員会委員長、監査委員、監査事務局長、農業委員会会長、農業委員会事務局長を除く。

出席事務局職員

第一号に同じ

議事日程（第二号）

昭和五十八年三月十日午前十時開議

日程第一 行政一般通告質問

開 議 午前十一時一分開議

○議長（林 豊君） 本日の出席議員数二十名、これより第一回市議会定例会第二日目の会議を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事は、お手元に配付の日程表により行います。

行政一般通告質問

○議長（林 豊君） 日程第一、これより通告による行政一般質問を行います。

締め切り日の三月七日正午までに提出のありました議員、要旨及びその順序はお手元に配付のとおりであります。

これより順次質問を行います。

この際、申し上げます。通告質問者は以上のとおりであり、他に関連質問等の発言もあろうかと思いますが、本日は通告者ののみといたします。

発言の方法は、最初の発言を二十分以内とし、執行当局の答弁は時間外、再質問は答弁を含めて三十分以内といたします。

これより順次発言を願います。

一二番議員栗原一雄君御登壇願います。

（一二番議員栗原一雄君登壇）

○一二番（栗原一雄君） 今期定例会にすでに通告のとおり、館山駅周辺市街地整備事業について御質問をいたします。

さて、本市は東京都心より約百キロメートルの距離に位置して

おり、したがって東京を中心に円を描きますと、百キロメートル線上に当たる各都市は独立した地方都市としての役割りを担っており、もちろん、時間的距離では道路の整備状況、交通網の整備状況等によっておのの時間的差があり、したがって経済的条件の違いが生じていることも事実でございます。

さて、市長は、本定例会冒頭の施政方針の中で、本市が活力に満ちた都市として発展するためには、安房郡市における中核都市としての機能充実を図りたいとお考えを示されましたが、本市の発展を左右するきわめて重要な課題となっており、長期にわたる議論されてきたところでございますが、市民生活の向上とは安定した経済的裏づけがあつてこそ初めて言える言葉であり、それにはまず房総半島南部の中核都市としての機能の充実を図っていく方向づけが重要であろうと考えます。そのような意味からも一日も早い実現を心から期待いたすところでございます。

さて、現在の本市の地域的役割りは南房総の政治、経済、文化交通の拠点都市として、また観光、レクリエーションの表玄関口であり、したがって南房総の観光客の交通の拠点都市としての役割りを果たしているため、乗降客の多い駅を中心とした交通は主に国鉄バス、日東バス及びタクシー、自家用車等に依存しているために混雑は激しく、したがって市街地の交通事情は年々悪化しているのが実情でございます。特に中心地である商店街通りの土曜、日曜日及びラッシュ時は混雑はひどく、ラッシュ時以外においても主要幹線道路である国道、県道上に商店街が構成されており、しかも歩道のない国道上に面した中心商店街では、現在の車の社会の時代においても旧態依然とした都市構造となっており、そ

の対応策は皆無にひとしく、したがって駐車場もなく、狭い店舗前の道路路上の駐車場の買物では安心して買物のできる状態ではなく、商業街区は危険性はあつても、買物に大切なゆとり、さらには近代都市に必要な治安性に欠けて安心して買物ができず追いつてられる環境では商店街としての機能は全くない状況でございます。したがって購買客の滞留時間の短い商店街となっております。

そのような悪条件、さらには危険度の高い商店街で、いままでも商業が成り立っていたものの、これからはきわめて困難なむずかしいものと考えます。

本市においても近年、駐車場のある中型規模の量販店の進出によつて顧客は移動をし、既存商店街の客数の減少、客単価の減少と大幅な売り上げ減となっており、すでに閉店を余儀なくされた店もあり、このような悪循環は消費者ニーズという面からはほど遠い状況であり、商店街という機能が薄れ、地盤沈下の現象のあらわれであろうと考えます。

したがって、現況では大型店の出店によつて壊滅的打撃を受ける状態であり、そのようにきわめて大型店には弱い都市構造となつてきております。もちろん、大型店反対のための反対ではなく大型店との共存できる街づくりこそ大切であり、社会資本の蓄積によつて市民生活の安定を図り、小売業者の使命である商業活動の活発化によつて、消費者への良質安価な商品の供給という社会的責任を果たせる都市構造として名実ともに南房総の中核都市への再開発を行い、衣がえをすべきものと存じます。

昨年十月三十一日開館した博物館は、去る三月七日は百日目に

当たらうかと思いますが、すでに三万六千人余の入場者を迎えておりますが、地域振興とは受け入れ体制の整備、充実を行ってこそ発展が望めるものと考えます。

これらについては市民ひとしく考えているものと存じますが、総論賛成各項反対では市民の将来はまことに不安定なものとなつて、市民の生活基盤の崩壊となりかねぬものと考えます。したがって、いまこそ行政の指導力が問われる重大な岐路に立たされるものと思います。

しかし、幸いにして昭和五十五年に館山駅周辺市街地整備調査が実施されて以来、地元において整備を行おうとする街区ごととに新しい街づくり研究会が発足しておりますので、行政の積極的な指導参加によって事業計画の早期実現を大いに期待するところでございます。

以上の点を踏まえ、館山駅周辺市街地整備事業について市の重点施策としているが、その進捗状況及び市街地再開発事業を含む商業近代化はどのように進めていくのかをお尋ねいたします。

以上です。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 栗原議員の御質問にお答えいたします。

館山駅周辺市街地整備事業についての御質問でございますが、その第一点は、その後の進捗状況はどうかということでございますが、まず館山駅西口地区につきましては、本年度は土地区画整理事業B調査として地上測量による五百分の一の現況図の作成を終え、基本計画図案の最後の詰めを急いでおるところでございます。

一方、地元におきましては、昨年十月末から十一月中旬にかけて行った館山駅西口地区を考える住民意識調査の結果報告会を、去る二月中旬に北条海岸町内会と六軒町第七町内会それぞれについて行いました。その場で地元の組織と市が協力し合った形で地区の整備についてともに考え、協議していこうという結論に達しました。

その協議会でございますが、調査区域内権利者を中心に組織化するという方向で現在町内会ごとに役員選定も含め具体的に検討されているところでございます。

市といたしましても、これを受け、地区の整備について区画整理事業の調査過程に応じて生ずる問題点を地元と市がともに話し合い、一つ一つ煮詰めて計画に反映させたいと考えております。

次に、館山駅東口地区でございますが、昨年までに結成された地元主導による各街区新しい街づくり研究会や、銀座振興会青年部近代化委員会、本年正月以降市街地整備と商店街環境整備及び商業近代化等をからめまして、その手法や制度内容の研究會を四回、延べ六十数名の参加を得ております。

また、研修会として、講師に県の事業担当者やコンサルタントを招き、テーマ別に二回行い、延べ百名を超える出席を得まして、これにより市街地整備や、商業問題について関心はもろんのこと、認識も深まりつつあり、具体的な事業化へと歩みつつあるものと考えております。

次に、市街地再開発事業を含む商業近代化はどのように進めていくかということでございますが、商業の近代化は、消費者にとって利便性、快適性をもった魅力ある商店街づくりであると考え

ます。

市街地再開発事業施行の予定区域は、A街区と呼ぶ区域でございますが、A街区を含む館山銀座振興会におきまして、再開発事業推進のため前述のとおり地域ぐるみの研究を続けております。市もこれに参画し、事業推進に努めているところでございます。

銀座振興会はまた、魅力ある商店街を目指して、県モデル商店街指定を受けようとする意識が高まり、先月に推薦方の依頼も出されました。これは条件に適合しておりますので、指定されることは有望と思われますが、市といたしましても、県とともに今後指定に伴う事業経費等をそれぞれ分担し、商業近代化を図る自主的な民間の努力を大きく育ててまいりたいと考えております。

以上、答弁を終わります。

〇一二番（栗原一雄君） ただいまの御答弁の館山駅西口地区につきまして、土地区画整備事業B調査の現況図の作成、また基本計画案の作成、役員の選任等を含め具体的な検討に入っているとのことでございますので、したがって土地区画整理に関する都市計画決定を早急にできるよう地元関係者の方々と十分話し合いをもって、相互理解によって、困難な問題も発生しようかと存じますが、早期実現を期待するものでございます。

次に、館山駅東口につきましては、各ブロック及び銀座振興会あるいは青年部近代化委員会等も再開発に必要ないわゆる手法や制度の内容について研究されたとの答弁でございますが、各関係団体が一体化しての研究会をされたのかどうか。

なお、商業の近代化について銀座振興会は県のモデル商店街の指定事業は有望なので市の推薦について依頼をしたとのことですが、

が、共同施設整備事業となりますので、地元各関係団体も同一的な考え方をしているのかどうか。いままで進めてきました再開発事業と県モデル商店街指定事業との内容の違いがあれば、それらの違いについてお尋ねいたします。

〇経済部長（山田俊康君） 東口におきます各団体の一体化した検討会等が行われているかという、こういう御質疑でございますけれども、これは行われております。

それから、モデル商店街の指定でございますが、これも説明会をしたときにも町内会の役員等、いわゆる商店街だけではなく、その地域住民である町内会の会長さんを初め役員も同席しております。モデル商店街の申請にあたっては商店街全員であります百九十何名かの申請によって行われましたので、それも申し添えます。

それから、モデル商店街と現在市が進めております市街地の整備事業との違いということでございますけれども、現実には駅周辺市街地をどう整備するかということで、東口は主として市が考えておりますのが再開発というような手法によってやったらどうかと、それとともに商店街の近代化を図っていかなければいけない。いろんな手法を組み合わせた中で再開発を図っていくということでございますので、現実の問題としては違いというものがございます。一体化した中に溶け込んで総合的に開発をしていくということでございます。

〇一二番（栗原一雄君） 整備手法としては市街地再開発事業並びに商業近代化事業となろうかと考えますが、昭和五十一年に駅周辺市街地整備調査が始まって、五十六年度にA調査が実施され、

地元権利者との合意形成活動と申しましたか、先ほど市長答弁にありました各ブロックごと、あるいは関係団体の研究会が結成されました、積極的な活動に入ったわけでございますが、目安として再開発に関する都市計画決定はいつ頃されるのか、完成目途はいつ頃予定されておるのか、お尋ねいたします。

なお、計画案作成にあたっては、基本的な考え方について、館山市の位置づけをどのようにお考えになっておられるか。また館山駅周辺地区の現状をどのようにとらえ、受けとめているのか、その問題点とは何か、今後の整備課題についてどこに力点を置かれているのかをお尋ねいたします。

○経済部長（山田俊康君） 第一点の事業を完成する目途はいつかということでございますけれども、現在までの進捗状況から申し上げますと、都市計画決定をする時期が昭和六十年頃になろうかと思えます。それから当然事業認可を受けるのが六十一年度、認可と同時に着工ということになろうかと思えます。

現在の市が考えております位置づけということでございますけれども、位置づけといたしましては、当然のことながら市長から何度か申し上げましたように、広域的な位置づけとしては安房郡市の政治、経済、文化あるいは交通の中心都市であるというような位置づけ。館山市におきます位置づけとしては、当然表玄関としての位置づけということになろうかと思えます。

駅周辺の問題点ということでございますが、現在は商業だけではなく、業務あるいは流通、各用途が存在しています。一部分住居にも使われているわけです。一般的には商業地域と言われながら、商業集積が他の都市と比較しますと、集積がきわめて低い地

域。それから地区内の道路率こういったものもきわめて低い。火災を初め防災上の問題点もある。人や車の分離というようなこともございせんので、当然安全度も低下している。それから建っております建物自身が木造建物が多く、しかも老朽化をしている。そういうような問題点があらうかと思えます。そういった問題点を今回の再開発事業を含めた近代化事業等をあわせて総合的に整備してまいりたいというふうに考えている次第でございます。

○二番（栗原一雄君） さて、モデル商店街指定事業が大変耳新しい商店街の再開発ということになろうかと思いますが、これは県内で実施されたところがあるかどうか、あればその地区名と申し上げますか、市町村名をお願いいたします。

なお、実施にあたりましてはどのような範囲までが補助対象経費となるのか、個々の店の改造に必要な経費等はどのような形で行われるのか、お尋ねをいたします。

○経済部長（山田俊康君） モデル商店街の指定が始まりましたのが五十六年からでございます。県において指定いたしましたのは五十六年が千葉、市川、茂原、四街道、船橋。五十七年度指定が流山、佐倉、木更津、旭、大原。館山は五十八年度指定ということで申請済みでございます。

モデル商店街の指定を受けた場合、どのようなメリットといましようか、この関係でございますけれども、事業費としては初年度においてはモデル商店街の推進協議会を設置いたしました、その協議会の運営経費等について事業費五十万ということで県から二分の一の助成が、市も四分の一程度の負担。二年目は計画策定事業ということで事業費六百万。三年目から五年の間に共同施

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 黒川議員の御質問にお答えいたします。

神余小学校早期建設についての御質問でございますが、お説のとおり神余小学校の創立は古く、また地区の中心になっていることは御指摘のとおりでございます。神余地区の皆さんから学校改築についての陳情書が提出されておりますが、児童数の推計等から直ちに改築することについて苦慮しているところでございます。御指摘のとおり、校舎は老朽化しておりますので、新年度予算に柱の根つぎ及び体育館天井の張りかえ等修理工事費を計上いたしましたので、これにより児童の安全確保をしたいと考えております。

以上、答弁を終わります。

○一七番(黒川平治君) 児童数の少ない、こういう面でございますが、すでに神余地区には東虹苑という四百五十戸分の造成がすでに終わっております。ここに居住する方も申し込みが殺到しておりますが、これはやはり学校の存続か、廃校かというような決定した面がないので、最終的にその契約をするまでにはいかないそこで学校がはつきり建つということになれば、現神余の戸数は二百戸これに対して四百五十戸の東虹苑の住宅もいっばいになるこうすれば児童数ははたがってふえてくると、そうすれば学校の生徒云々の要因はなくなるというように考えております。この面に対しても、やはり学校を存続して、学校が建つということになれば、この造成地だけでもすぐこれは満員になる。学校の生徒はふえてくる。ただいまの市長さんの児童数が少ない。こういう点等これはこういう面で解消されるというようなこととお願い

する次第でございます。

○教育長(安田豊作君) 黒川議員さんの御説明によると、東虹苑

等の造成によって将来子供の数もふえるだろうということでございますが、私どもの行政措置としては、現実にいる子供の事態に応じて処置するという以外に方法がありません。

現在、私どもが握っておる市の電算による推計によりますと、現在六十一名でございますけれども、五学級になっておりますけれども、それが来年は五十五、五十九年は四十九、六十年が四十五、六十一年が三十九、六十二年が三十七、六十三年には三十五人ということで、来年度からは四、四、四それから三、三と学級数はこのまま行けば減るわけでございます。そういうことで現実的にはそれに対応した行政措置を現在としては考える以外には私どもは方法がありませんので、とりあえず市長から申し上げましたように、安全確保の面から修理工事を計上させていただいた。こういうのが現実でございます。

○一七番(黒川平治君) 大体、児童の推移はよくわかりました。

ところが、五十二年に敷地を確保すれば学校建築の新築をするその後児童数の推移はやはり統計的に変わってきて少なくなっております。そういう現況に対して教育委員会、教育長並びに行政の面から神余地区民に対する指導回数は何回ぐらいしているか。指導回数があまりにも少な過ぎた。五十二年八月十六日、五十三年六月五日、五十三年九月、五十三年十月、五十三年十一月これまではいいんです。「老朽校舎であり、事故の責任は市である。したがって早く土地を確保し建設したい」という市長の談話が五十三年十一月十九日に神余地区民との話し合いができておる。そこ

で候補地三カ所をいろいろ地元の人が物色をして、その間にいろいろの話をしてそのまま経過してまいりました。ところが、五十三年十一月二十九日以降五十四年三月十一日、五十五年二月十三日この間に何ら指導は全然ございません。その後五十五年五月、五十六年三月、五十八年一月と、これ以外に現地に対する指導全然なかった。極端に指導数が少なくなるから、廃校、豊房と統合こういうような市だけの考えである。なぜ部落民との話し合いを持たなかった。指導をしなかったか、その点についてひとつ伺いをいたします。

○教育長（安田豊作君） 御指摘のとおり、部落民に対して統合と
いうことでの指導はなかったと、こういう御指摘そのとおりでございまして、その点申しわけなかったと。ただ、用地の確保あるいはその用地が不適であるというようにことでの検討についてはかなりの、いろいろ御指摘、挙げていただいたようなことで接触はしておったつもりでございます。

当時、五十二年頃建てるという、確約という言葉でおっしゃっておりまされども、用地が確保できたら建てるよう考えてみたというお話はしたことがあります、その頃はいわゆる子供が増加しているときであります。そのときにもすでに神余小学校は六学級ありまして、小学校の子供が増加の時期に向かっておりました。ここ二、三年ですね、減り始めてきたのは。ですから、ここに来て減り始めているということでございます、これが社会的変化の状態において現在検討といえますか、建築か否かについての問題について苦慮しているというのが真実でございます。

○一七番（黒川平治君）

教育長さんの苦慮している面よりも部落

民の苦慮の方がはるかに大きいのでございます。

先ほども申されたとおり、児童が減ってくる、これはやはり神余の部落民の生活環境よりして、いろいろな事情から児童が減ってきたかもしれないが、やはり空き地を造成して宅地化して戸数をふやして、人口をふやして神余の発展を願うというようにことで東虹苑が造成されております。学校が完全に存続する、そういうような条件が付されるならば、この東虹苑はすでに四百五十戸ここに住みつく方も出てくる。こうなれば児童のふえてくることは間違いない。こういう面から私は児童の現在少なくなる面は、この面で解消する。そういうように考えております。

ただ、先ほども私申し上げており、あまりにも指導であたる回数が少な過ぎた。年平均一回ないぐらい。五十三年から五十四年、五十五年、五十六年一回、これぐらいの話し合いでこれだけ大きな問題が――部落民に用地を見つければ必ず建ててあげます。確約した。この話し合いが、話し合いを持たずに、児童数が少なくなったら、合併しようか、統合しようか、それで考えている。こんなことで苦慮する原因にはなりません。苦慮するならば本当に考えて部落民との話し合いをもつて、数多く話し合いをして、それから逐次話し合いを進めていくのがやはり市の指導者の私は仕事ではないかと考えております。この点もう一つ。

○教育長（安田豊作君） 御指摘のとおり、今後精力的に話し合いを進めていきたい。こういうふうに思っておりますが、参考までに現在私どもがつかんである人口の推移について申し上げてみたいと思いますが、神余地区全体で五十七年一月一日が八百二十三人でございます。それが五十八年一月一日が八百十九名。増減で

マイナス四人と減になっております。これを子供の面で考えてみますと、子供の出生は五名でございます。それからこれらの子供だけではなくて、神余地区での異動であります。神余地区の転入の人数が二十名、減の方を調べてみますと死亡が七名、出生五に対して死亡七、転入二十に対して転出が二十一名でございます。それから行方不明といえますか、職務消除で一名ですから、二十二名の減になります。したがってマイナス四というのが出てくるわけです。

こういう統計推計から見ていきますと、東虹苑その他産業の振興によって人口の増を考えられるんだとおっしゃいますけれども私もそれはこういうことを元にして考えていくと、どうしてもそういう結論に達しませんので、そこでさっきから申し上げているように苦慮していると、今後この問題については地区の方々と十分話し合っていきたい。こういうふうに考えております。

○一七番（黒川平治君） 人口の推移はひとり神余部落だけではございせん。全国的にこういう傾向にあることは間違いないでございます。そこで、私は東虹苑四百五十戸これを引き合いに出したの、やがては神余の住民になることは間違いないのでございます。そこでふえることは間違いない。同じ神余先住民の人口が減っても、新しい四百五十戸が入ったならば、これでふえてくるというような面を予測して、これから建てようではないか。明治七年に建った現在ある学校を残そう、こういうことなんです。ある学校を残す。これから新しくここへ学校を建てるというのはございせん。そういうことでございますから、この推移等はやはり東虹苑の人家の戸数の増加によって、こういう面は解消されてくる。

やがては学校も狭いぐらになる。私はそう考えております。また部落民もそういうふうな推移の先を考えて、こういう学校の存続を希望しているのでございます。

（傍聴席にて発言する者あり）

○議長（林 豊君） 静かに。

この際、申し上げます。傍聴席からの発言は控えてください。

一七番議員君に申し上げます。ただいまの質問の要旨をまとめていただきたいと思います。

○一七番（黒川平治君） 教育長さんのお話ではやはり生徒が少なくなる。こういうような神余の現況からそう申されたのでございますが、私はひとり神余のみならず全国的な統計の推移がやはり少なくなる。そこで造成地がすでに完成してある。家もだんだんと建っております。その造成地が家でいっぱいになれば必ず人口はふえてくる。こういう面をお話申し上げたのでございます。

そこで、人口が少なくなる、生徒が少なくなるというのは当面の問題で、数年先には必ず多くなることはわかっております。そこでやはり生徒の少なくなる云々は、これは解消できる。それとこの学校がある、ないによって神余の山間地というものは、やはり今後の発展に大きな役目を果たしている。学校がなくなることによって大変神余はさびれてくる。そこで現在の繁栄を維持していくと、より以上発展するために残していただきたい。こういうようなことでございます。以上。

○教育長（安田豊作君） 黒川議員の質問の趣旨も、要望もよくわかりました。そういう点も踏まえて地区の皆さんと十分今後誠意をもって話し合っていきたい。こう思っております。

○一七番（黒川平治君） わかりました。大体私の質問申し上げます。した要旨に沿うようにひとつ検討していただくようお願い申し上げます。ありがとうございます。

○議長（林 豊君） 以上で、一七番議員君の質問を終わります。

次、二五番議員五十嵐 昇君御登壇願います。

（二五番議員五十嵐 昇君登壇）

○二五番（五十嵐 昇君） 私は、本定例会に提案されました諸議案の審議に先がけまして、これから四点にわたって市長に対して質問を申し上げます。

その第一は、教育の問題であります。端的に申し上げるならば現在の青少年の間にも非行が多過ぎやしないか、青少年の非行防止の問題と、なおこれらの生徒諸氏をいかに健全なる市民、県民、国民に教育していくかと、いわゆる健全育成の問題であります。これらはわが国これからの前途をうらなう、前途を決するような重大な問題であると認識するものでございます。

これは、好むと好まざるとによらず、われわれが避けて通れない道であり、一日も早く、一刻も早くこの重大問題と取り組んでそうしてこれを円満に解決していくこそ、われわれ現代に生をうける日本国民の責任ではなからうかと考える次第でございます。したがって、そういう点についてこれらの青少年をいかに育成していくか、いわゆる生徒指導の教育の問題であります。

その問題を取り上げますにあたりまして、その内容はどんなものであるか、昨年横浜に起きた三人の少女が高層建築の上層から飛び降りて次々に尊い生命を失っておるのでございます。

また、こういう特異な事件をきっかけといたしまして、心中事

件とか、あるいは校内暴力とか、あるいは登校拒否とか、あるいは非行、あるいは各自の家庭内における暴力問題、あるいは家庭から離れて家出をする、また中には無断で外泊をする、また中にはわれわれ国民の落ちこぼれと申しましょうか、社会的に生活にも困るような浮浪者であります。この浮浪者狩りと称しまして、若い青年がこれを駆逐すると、あるいは殺りくをするというような生々しい現実が各所に起こっておりますのでございます。これがいわゆる横浜事件でございます。

また、本県におきましても、ついすぐ隣の木更津であります。木更津中学におきまして生徒会の役員の選出問題について生々しい非行事件、暴力事件が発生しておりますのでございます。

また、東京都の南多摩町田市という最近非常に膨張発展を続けておる、町田市の忠生というところにまた忠生事件と称しまして大きな暴力事件が発生し、先生が生徒を刺すというような生々しい生々しい傷害事件が発生しておりますのでございます。

これが全国的に波及いたしましたので、全国で二千数百件というこういう痛々しい事件が多発しておりますのでございます。

また、去年の三月の二十三日でしたか、幾日でしたか、すぐ隣の富浦町在住の福原憲司先生が県北の流山高校の校長として流山高校に起きた暴力事件について責任をとり退職され、なお尊い自分の生命さえ断っておるのでございます。またその先生に対するお身内の方の後追いというようにことで福原先生の御家族がめっちゃめっちゃになっておる。こういうことも聞き及んでおるのでございます。

なお、東京都の村山の五中の校内暴力事件、あるいはそういうい

た風潮が蔓延いたしましたして、あたかも燎原の火の如く燃え広がりに
心中寒々としたさびしさを感じるのには、あに私一人ならんやでござ
います。このときを踏まえて過去を思い、現在を認識し、また
将来をうらなうことにつきまして、われわれ国民は熱心に自分の
全身全霊を傾けて考えなければならないと思うのでございます。

また、私がこうして話してある最中にも校内暴力事件が日本全
国にわたって巻き起こっております。本日の読売新聞の朝刊に「学園
荒廃一気に噴出」こういう見出しのもとに中学校の三年生五人が
強盗で逮捕された、こういう事件も起こっておりますのでございます。

また、先輩と同窓生を押し入って、襲撃して、そうして金銭を
巻き上げておるといふふうなことも伝えられておるのでございま
す。

また、本県におきましては、蘇我中学の非行事件これも起こつ
ております。

また、その非行に加えて放火をしてしまふ。こういう寒々しい
事件が引き起こされておるのでございます。なお放火、失火につ
きましては、これは放火であるか、あるいはたばこを飲むという
ような悪習によるところの失火であるか現在警察の手によって明
らかにされつつあると。

また、姉ヶ崎中学におきましては、校内暴力事件の発生と、今
年になって数十回にも及んでおるといふうなことが報ぜられて
あるのであります。

そういう非行が暴発しておる現状を正しく、深く認識いたしま
すと、ただただ暗然とした氣持がわき起こってまいるのでござい
ます。

教師はやはり生徒指導が本職であります。この生徒指導をいか
になすべきやについて十二分にわれわれが一致協力をして考え直
さなければならぬ事態に直面しておるのでございます。

先生の名譽、メンツというものは、やはり学校の面目、メンツ
であり、われわれ市民の一員といたしましても、万一そういうこ
とが起こった場合、なにか館山の子供は悪い子がいるなというふ
うなことで、われわれのメンツも、教師としての体面もくずれて
まいるのでございます。そこで市民、県民、国民が打って一丸と
なり、この非行防止に全身全霊をぶち込んで突進しなければなら
ないことは論を待たないと存するのでございます。

そこで、これらの非行をいかに解決していくか、これが問題で
ございまして、私の提言といたしましては、まず教権の確立と血
の通った児童愛の持続と、親が子供を教育する場合に与え与えて
うまないその親心、また先生方が皆さま方のお子さんを預かって
教育する場合に、教え教えてうまないそういう師の思いやり、ま
たそれを取り囲むところの大人の世界の社会環境、こういうもの
の間には先生と弟子の間の信頼関係、この先生に教わってよかつ
たな、この学校に通ってよかつたなと、こういう信頼関係がなけ
れば学校教育の完全は求め得られないと思うのでございます。

教育の荒廃は北の方から、県北からどんどん県南の方に押し寄
せております。そうしてそれも高校から中学へと、低年齢層へと
波及する現状をわれわれは目の当たりに見て、何人といえどもこ
れを否定することはできないと、こう存するのでございます。そ
ういう面につきまして市長さんの御所見、これに対する方策につ
いてお尋ねをする次第でございします。

われわれの大人の社会は、行動はすぐ子供に影響してまいります。見たり、聞いたり、現実に大人がこうしているじゃないか。

ああしているじゃないかというふうなことで子供たちは、たとえば大人がたばこを吸う、あるいは大人の人がくわえたばこで廊下を通る。そこらへばっぱと捨てて省みない。こういうような行動につきましても生徒諸氏はこれを見ておるのでございます。親がそういったことを軽々しくしていることにつきまして目を向けておるのでございます。

そういう点から、私はこれから申し上げる五項について大人の方々もこれはぜひ生徒にりっぱな模範的な行動で導いていただきたい。こう考えるのでございます。

そこで、一といたしまして、人間倫理の高揚の復活。二番目には麻薬類の取り締まりを厳重にすること。たとえば大麻であるとか、あるいはその他の覚せい剤、シンナー等の、あるいはボルノ関係、セックスに関係したボルノ関係の書類の発行を取り締まると。それから学歴偏重の思想、みんなネコもしゃくしも大学まで行くのがあたりまえだというふうな、そういう学歴偏重の風潮もわれわれ社会に欺瞞していることでありまして、

○議長（林 豊君） 五十嵐議員さん、まだほかに幾つもござい
すが。

○二五番（五十嵐 昇君） こういうことで、われわれは現在の教育の直面しておりますところの難問題に取り組んでこれを解決していかなければ子供の教育は完全には直りませんよと申し上げたいのでございます。

ですから、われわれがまず身を修めて、そうして家を整えて、

社会が治まって、そうして天下泰平となるということを考えますときに、われわれの行動について十二分に慎重ななければならないと思うのでございます。

そこで、時間もなくなりますので、老人の福祉の問題に移らせていただきますと存じます。老人福祉センターのB型の建設を市当局は建設しておると、なお市側の具体的施策といたしまして運動の里、テニスの里を建設すべく考えておると、また老人福祉センターのB型の建設も計画しておると、こういうことで市側の具体的方策についてその大略を御説明いただきたいと存ずるのでございます。

なお、館山市に多くおられます御老人に対する思いやり、愛の手を差し伸べると、こういうことで在宅老人あるいは独居老人たちのいわゆる老人に対して温かい手を差し伸べる施策について市長さんの御所見を伺いたいと存ずるのでございます。

そこで、私はそういう在宅老人の方々に温かい手を差し伸べるということの一つとして、家などを新築する場合に一室御老人向けの暖かい室をつくってあげたらどうだろうか。それについて市としての補助はできないものか。

それから、食生活であります。御老人の食はわれわれ成年の食とは違った特殊の調理を必要とするということで、週一回ぐらいはせめても御老人に対して給食はできないかと、他府県によりますと、牛乳を配ってそうして御老人の安否を尋ねると、こういうことも伝えられておりますが、当館山市におきましてはそういう給食の点は考えられないか。

また、これはボランティアの問題になりますけれども、そういう

う面で年一回ぐらい市民の方々に呼びかけてバザールを開いて暖かい衣類の交換をして御老人を慰問したらどうか。こういう点につきましても市当局の御意見を伺いたいと存するのでございます。

その次に、第三番目といたしまして、観光資源の愛護と博物館本館工事の進捗についてであります。博物館分館は館山の持つ観光資源の最たるものの一つと思うのでございますが、その後の利用の現況について御説明を求めます。

○議長（林 豊君） 二五番議員君に申し上げます。

約束の時間でございまして整理を願いたいと存じます。

○二五番（五十嵐 昇君） そういうことで、御老人に対してはもわれわれは温かい手を差し伸べて、御老人もいるし、また中年の方もいるし、また幼年もいるという、こういう社会におきましてお互いに持ちつ持たれつ感謝、報恩の精神をもってするならば解決すると思います。

（「時間だよ」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） ただいまの二五番議員君の質問でございすけれども、第三、第四についての質問がほとんどなかったと思います。老人に対する質問で終わってしまったように考えますのでこの点の質疑はよろしゅうございますか。

○二五番（五十嵐 昇君） ただいま私の不手際でちょっと時間が超過いたしましたので、おわびいたしますが、私が質疑できなかった点につきましては、担当課の方々からなにか紙面でお漏らしただければ、それで十分でございます。

（「議会運営おかしいぞ」、「休憩」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 暫時休憩いたします。

午前十一時 十五分 休 憩
午前十一時二十三分 再 開

○議長（林 豊君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（市長半澤良一君登壇）

○市長（半澤良一君） 五十嵐議員の御質問にお答えをいたします。大きな第一点でございしますが、お説のとおり学校教育は知育、体育、徳育が調和して行われなければならないことはいうまでもありません。昨今、青少年の非行が増加している現実を見ますと、まことに憂慮にたえません。

市といたしましては、義務教育期間は人間形成の基礎をつくる重要な段階でありますので、進学の関係からややもすると知育偏重に陥りやすいので、校長会、教頭会、教務主任会等を通じ、全人的な教育を徹底するよう指導行政を充実、強化しております。特にゆとりある充実した学校生活の実現。教師と生徒の人的接触を深め信頼関係を確立すること。学校、家庭、社会が連帯意識の上に地域ぐるみの指導体制を確立するなどを中心に積極的な施策を推進していく所存でございます。

次に大きな第二点、社会福祉の問題についての御質問でございますが、老人福祉センターは移転する計画はございません。昭和五十八年度予算に計上しております老人福祉センターB型の建設計画につきましては、現在建設中の清掃センターの余熱利用による入浴施設を初め娯楽、教養施設など床面積百九十四平方メートル余りの小規模老人福祉センターを建設し、既存の老人福祉センターA型との有機的な連携をとりながら運用してまいりたいと考えているところでございます。

以上、二点につきまして御答弁申し上げます。

○二五番（五十嵐 昇君） 時間の関係で大きな三、四の問題はカットされたのでございますけれども、第一、第二につきましてただいま市長さんから人間尊重の立場で館山の市政、教育について考えたいと、大人も、御老人も、壮年の方々もみんな一つの連帯感をもって事に処するならば、必ずや館山市政は発展するであろうと、こう存するのでございます。つきましては、日頃の市長さんの人間尊重という根本精神につきまして賛意を表し、なお市政の発展をお願いしたいと、こう存するのでございます。

なお、老人福祉センターの問題でございますけれども、老人の方々の間には、半澤市長さん出野尾の山の上に施設をみんな持っていていっちゃうんじゃないか、そうなると思われるのは、偏在してまたあの山の上で交通が非常に不便で、どうもそういうりっぱな施設をおつくりいただいても利用価値をそぐもんじやないかと、落とすもんじやないかと、こういうふうな心配のことからこの移転については慎重に考えをいただいて、なお余熱利用云々ということもありましようけれども、御老人の方の福祉センターということになりますと、これは交通面、いろいろの面から勘案していただきたいと、こう存するのでございます。そういったことで老婆心ながら申し上げまして、いままでの老人福祉センターはこれは存続するんだと、なおこれを有効に活用するんだという市長さんのお言葉を拝聴いたしましたして、そういうことで話してまいりたい、こう存じます。どうもありがとうございました。

以上、終わります。

○議長（林 豊君） 以上で、二五番議員君の質問を終わります。

次、二〇番議員石井武敏君御登壇願います。

（二〇番議員石井武敏君登壇）

○二〇番（石井武敏君） 私は、すでに通告してございます六点にわたりまして御質問を申し上げます。

第一点は、房総縦貫道路計画につきまして県や国への働きかけをどのように考えておりますかという問題であります。

第二点は、ヘドロ化をしている館山湾の浄化対策についてどうかという問題であります。

第三点は、あすを担う青少年のための社会教育の振興策としてどのような対策があるかという問題であります。

第四点は、災害から市民の生命や財産を守るための施策はどのように推進するかという質問であります。

第五点は、福祉対策についてであります。家庭奉仕員制度、老人福祉センターの整備、B型老人センター、対人保健サービスについて具体的にどのように推進されますかという質問であります。

第六点は、根幹事業実施計画の中の下水路整備、それから橋梁整備、公園整備について計画を具体的に説明をしていただきたい。

こういう六点にわたって質問しますが、まず第一点の房総縦貫道路の計画についてであります。この件につきましてはすでに昭和五十六年度に施政方針演説の中に明記されております。少し引用しますと「房総縦貫道路計画等につきましても、関係市町村と緊密な話し合いのもとに、その実現に努力してまいりたいと存じます。」というように明記されております。今回の市長の施政方針の中にもこの道路計画の実現に対しまして前向きな姿勢を明

らかにしております。演説の中には「さらに、本構想の大きな核となります東京湾横断道路も国の第九次道路整備五カ年計画の中で建設に着手するとの方向が示され、これを受けての国道四百九号線、四百十号線、百二十七号線バイパスの建設等二十一世紀に向けての輝かしい未来の展望が示されるに至っております。」というようになっております。

私は、東京湾岸道路の建設と縦貫道路の建設計画はかなり深いかわり合いを持っていると考えております。東京湾岸道路は川崎、木更津を結んで、なおさらに東京都心につながる環状線型の道路なのであります。この環状線道路とつながって房総半島へ南下していくのが縦貫道路の計画だと私は理解をしておりますので、東京湾道路の建設と歩調を合わせて同じくこの計画も進められていかなければならないのではないかとというふうに考えます。その点どのようにお考えでありますか。

また、二十一世紀への交通網の展望ということからも、現在進められております国道バイパス計画だけではまことに不十分であると思われれます。こうした広い展望に立って見たときの交通網計画についてのお考えをお示し願いたいというふうに思います。これが第一点でございます。

第二点につきましては、最近特にヘドロ化をしてきております館山湾を見ますとき、これを浄化する施策、また汚染の深度を防止する対策は大変重要な施策であると思えます。登んだきれいな館山湾が果たす役割は観光に関するもの、また漁業に関するもの等さまざまなありますが、どれ一つをとっても当市にとってかけがえのないものばかりであります。そこで新年度におきます施策に

ついでお尋ねをするものであります。館山湾の汚染防止対策としてどのようなものが考えられますか、また長期計画的に基づいて見たときにどのように考えられますか、あわせて御質問をいたします。

次に、三点目ですが、これはあすを担う青少年のための社会教育の振興策としてどのような対策が考えられますかという質問であります、この問題は三点にわたって御質問します。

まず第一は、青少年の体力や能力をはぐくむ施設についてどのように考えられますか。二番目は、青少年の教育の内容という点からの施策についてどうかという質問であります。第三点は、青少年を取り囲む現在の環境で改善をしていく必要のあるものをどのように考えておりますか。この三点にわたって御質問します。私は青少年問題の取り組みはこの三点から考えなければならぬというように思います。まずは当市としての青少年をはぐくむための施設はどうか。またその教育の内容をどうするか。また青少年を取り囲む環境をどうするか。この三つについて御質問するわけでございます。

これらの点につきましては、かねてから青少年問題協議会におきまして昭和五十八年度館山市青少年健全育成対策基本方針というのが定められておりますが、当市としての施策の一環として取り上げなければならぬ重要な課題の一つであります。

当市は、県北の都市と比較しまして非行例は少ないとは言え、決して油断のならない現状であるというように私は思います。といいますのは、昭和五十六年、五十七年の当市の不良行為少年補導状況を見ますと、十四歳未満また十四歳から十九歳まで、

要するに十九歳以下の年齢層における不良行為でございます。これは昭和五十六年が総数で六百九十一件でありました。それが五十七年になりますと九百五十五件というように上っております。

また今年度の現在の掌握時点におきましても、昭和五十八年度に入りましてなおこれを上回るのではないかと、前年のデータを上回るのではないかとというように予測をされております。また昭和五十七年度の刑法犯に触れた少年の数を見ますと、これが九十二名でございます。こういう状況になっておりますので、この取り上げ方としても真剣にかつ深く考慮して進めなければならぬというように考える次第でございます。以上申し上げました状況を踏まえまして、当市の取り組み方をお尋ねするものでございますが、お答えを願いたいと思います。

次に、災害から市民の生命や財産を守る防災の問題であります。これは昭和五十八年から六十年に至ります根幹事業実施計画の中に、防災体制の整備として耐震性井戸貯水槽と災害用浄水機の購入が示されておりますが、金額で言いますと三千七百万相当であります。いずれも昭和五十八年度までの計画で終了しておりますので、その後の計画としてはどのようなものが考えられますか。

また、この問題につきましては関連として四点通告してありますので、その点に關しまして御質問するわけであります。第一点は地震予知に関する対策としてはどうか。第二点は公共施設の窓ガラスの飛散防止対策についてはどうか。第三点は防災無線の各戸配布について実現できないか。第四点は倒壊しやすいブロックベいの改善についてどうか。以上について御質問いたします。

で、御答弁いただきたいと思ひます。

次に、第五点目でございますが、これは市長の施政方針の中にる述べておられます。引用を避けますが、それらにつきまして四点御質問します。第一点家庭奉仕員制度について。第二点老人福祉センターの整備について。第三点B型老人福祉センターの規模、構造、運営の内容について。第四点対人保健サービスについて。それぞれにおきましてどのように推進されていきますか。御説明をいただきたいと思ひます。

次に、第六点目でございますが、根幹事業実施計画の中の下水道、橋梁整備、公園整備についてであります。下水道の整備につきましては北条中央下水路、八幡都市下水路等が五十八年度から六十年にかけてまして四億九千万相当の予算が投じられて整備をされようとしております。

また、橋梁整備については館山大橋、汐入橋等におきまして二億九千万、これが五十八年から五十九年にかけて整備をされようとしております。

次に、公園の整備については城山公園、諏訪山公園、館山運動公園、高の島公園等の整備が約九億円をかけて昭和六十年までに行われようとしております。

どれもが館山市にとりまして、市の発展のために大きな整備計画であるというように私は考えますので、計画の内容を明らかにしていただきたいというように思ひます。

以上、六点につきまして御質問いたします。御答弁によりまして再質問をいたします。以上でございます。

(市長半澤良一君登壇)

○市長（半澤良一君） 石井武敏議員の御質問にお答えをいたします。

第一点は、房総縦貫道路計画についての御質問でございますが国道四百九号、四百十号は東京湾横断道路の後背関連計画道路として考えられております。四百十号のうち幅員の狭いところの拡幅改良はすでに着手されているところもありますが、全般的に建設費等が減少している中で、この完成年も明らかとなっていないので、これからも関係市町村や国道四百十号並びに関連道路整備期成同盟会さらには種々機会をとらえまして国、県に対しまして早期完成の働きかけをする考えております。

また、二十一世紀の交通幹線としては国道百二十七号の内房バイパスと百二十八号、四百十号を完成させ、南房総を袋路からの脱却を図りたいと考えております。

第二は、ヘドロ化している館山湾の浄化対策についてでございますが、汚染の原因は河川より流入する生活排水を初めとした汚水にあるわけでございまして、これが対策といえまして一、排水路、側溝等の定期的清掃。二、し尿浄化槽維持管理については行政指導の強化。三、洗たく洗剤の適正使用PR。四、河川におけるごみ等不法投棄防止。五、畜産ふん尿の適正処理化。第六、炊事排水の適正処理PRこれらのことを考えております。

また、長期的に見た場合はどうかとの御質問でございますが、これは公共下水道を整備しなければならぬと考えております。

次に第三点、あすを担う青少年のための社会教育の振興策としてどのような対策があるかという御質問でございますが、この問題につきましては、単なる非行防止策に終始することなく、長期

的視野に立って総合的な対策が必要でございます。市といたしましては先般青少年健全育成対策協議会を設置し、市民一体となり健やかで、たくましい青少年の育成を図っていく考えてございます。

そのための対策として、まず、健全育成の施設の整備充実を図ることでございますが、既設の公民館、青年館、体育館、運動場児童遊園等を広く活用することはもちろん、近く完成するコミュニティセンター内の勤労青少年ホームを青少年育成の中心的施設として、指導体制をも強化し、利用の促進を図ってまいりたいと考えております。

次に、青少年教育の施策についてですが、人間性豊かな人格形成のためには少年、青年へと成長する時期に即した課題を的確に把握し、計画的、継続的な実践活動が必要でございます。現在家庭教育学級、幼母学級、少年教室、青年教室、婦人学級、PTA学習会、こども育成研修会等の活動を通じまして、その推進に努めているところでございます。

また、環境改善の問題でございますが、引き続き残存する有害図書販売機二基の撤去運動を展開し、さらに学校及び関係機関の協力を得て不健全ポスター類の学校周辺への掲示禁止運動、優良図書の推奨活動等を展開してまいります。なお交通安全、防犯対策等については諸団体と提携し、安全で住みよい環境づくりを積極的に推進してまいります。

第四点は、災害から市民の生命や財産を守るための施策についての御質問でございますが、その小さな第一点、地震予知に関する対策でございますが、地震予知については、現在予知が確実に

発表できるのは、大規模地震対策特別措置法により強化指定された東海沖地震のみでございます。東海沖地震の予知の対応につきましては、去る二月二十八日館山市防災会議をもちまして、社会的混乱の防止と被害を最小限にとどめるため館山市地域防災計画の附編として策定しておりますので、今後関係機関並びに市民に對しまして周知を図る計画でございます。

なお、館山市に直接大きな災害をもたらすと言われております房総沖地震につきましては、国において地震予知を行える体制となつたときには、東海沖地震予知対応計画に準じ、また一部対応を強化するなど適切な対策を講じなければならぬと考えております。

第二点、窓ガラスの飛散防止でございますが、大地震によるガラスの飛散は被害を増大させますので、この対策としてこれまでは強化ガラス、網入りガラスへの交換、また飛散防止用に透明フィルムを張りつける等の方法しかなく、これらは非常に高価でございますので、一平方メートル当たり六千五百円程度かかります。一般には普及しにくい現状でございます。しかし最近では実用向きに安価な品が種々開発が進められておりますので、これからの課題として考えてまいりたいと思ひます。

第三点、防災無線の各戸配置でございますが、防災無線につきましては現在同報無線等による防災広報の方式を検討しておりますが、一般家庭への防災無線の配置は考えておりません。

第四点、倒壊しやすいブロックべいの改善についてでございますが、昭和五十三年六月の宮城県沖地震でブロックべいによる被害を受けており、その後館山市では学校周辺におけるブロックべい

の一点検を実施しております。現在では建築基準法の改正があり、ブロックべい工事が強化されております。引き続き自主防災活動による危険箇所の点検などを推進し、危険なブロックべいについてはその改善を所有者と話し合つていきたいと考えております。

大きな第五点、福祉対策についてでございますが、そのうち家庭奉仕員制度でございますが、御案内のとおり独居老人、ねたきり老人、心身障害者のうち介護を必要とする家庭につきましては低所得者に対する無料奉仕と、本年一月から有料による派遣制度も発足いたしましたので、職員を一名増員し、現在五名の職員で老人世帯二十七ケース、身障世帯六ケース、有料世帯六ケースをお世話しておりますが、今後の実態に即応して事業の円滑な運営を図つてまいりたいと考えております。

次に、老人福祉センターにつきましては、昭和五十八年度には冷房装置及び身体障害者用の便所を設置いたしましたので、その整備にあたる考えてございます。

次に、老人福祉センターB型についてでございますが、これは現在の老人福祉センターを小型化したものでございまして、鉄骨づくり平家建て百九十四・四九平方メートルを建設し、清掃センターの余熱を利用した入浴設備等充実した施設として運営してまいりたいと考えております。

なお、対人保健サービスでございますが、現在実施している地区コミュニティ組織の自主的な活動を基盤として、医師会の協力を得ながら保健事業を推進したいと考えております。本市では毎年結核予防法による結核検診を初め各種住民検診、予防接種

等を実施しておりますが、五十八年度では成人病に対する健康教育、健康相談を地区ごとに実施する予定であり、健康診査、がん検診及び総合検診につきましても段階的に推進したいと考えております。また乳幼児に対する健康診査、健康相談及び訪問を必要とする在宅老人に対し生活指導や家庭における看護指導等を実施する予定であります。

大きな第六点、根幹事業計画についての御質問でございますが下水路につきましては八幡下水路五十八年度百二十メートル、五十九年度百六十メートル、六十年年度百九十一メートルを整備完了の見込みでございます。北条中央下水路につきましては五十八年度百十メートル、五十九年度二百六十メートル、六十年年度百六十メートル、六十一年度三百八十三メートルを整備完了見込みでございます。また小規模排水路である新塩場排水路は五十八年度完了見込みでございます。楠見、船形芝二号排水路等については三カ年程度の継続で実施を予定しております。次に地域排水路整備事業として県施行で実施される南町排水路は五十八年度百メートル、五十九年度二百メートル、六十年度二百メートル、六十一年度百六十メートルを整備完了見込みでございます。

次に、橋梁整備につきましては、館山大橋は五十七年度で現況調査を実施した結果、補修箇所が明確となりましたので、五十八年度実施設計を行い、五十九年度に補修工事を実施し、また汐入橋は五十九年度の現況調査の結果を見て、補修の必要があれば六十年度以降で補修工事を実施していきたいと考えております。吉野橋、安布里橋を五十八年度でかけかえ整備見込みであります。また五十九年度以降は鎌田橋、湊橋、田中橋、新田橋、島原橋、

久所橋、官前橋のかけかえ整備を予定しております。

次に、公園整備についてでございますが、城山公園は五十七年度まで約七七％の用地取得、残り二三％を五十八年度で取得予定でございます。施設では五十八年度彫刻の径、展望広場周辺の転落防止さく、芝張り工事。五十九年度駐車場、ピクニック広場、これに関連する園路、六十年年度万葉植物園、日本庭園、六十一年度テビッコ広場等を年度区分し整備完了見込みでございます。

諏訪山公園は五十八年度主要園路百四十メートル、五十九年度主要園路百二十メートル、駐車場、その他関連する施設を整備完了、供用する見込みでございます。

高ノ島公園は五十七年度であずまや、便所等を整備し、引き続き五十八年度園路等の整備完了、供用する見込みでございます。

館山運動公園につきましては昭和五十三年から整備しており、五十七年までに敷地の造成工事、給排水施設、調整池、電気工事多目的運動場が完了しており、五十八年度は野球場、トイレ、エントランス広場造成等が計画されており、五十九年度以降体育館テニスコート、管理事務所、照明工事等が実施の予定でございます。

以上、答弁を終わります。

○議長（林 豊君） 午前の会議はこれにて休憩とし、午後一時再開いたします。

午前十一時五十七分 休 憩

午後 一時 一分 再 開

○議長（林 豊君） 午後出席議員数十八名、休憩前に引き続き会議を開きます。

〇二〇番（石井武敏君）

先ほど、私の六点にわたる御質問に対しまして市長からる御答弁がありました。なお数点質疑を通して明らかにしていただきたい点がございまして御質問申し上げます。

第一点の東京湾の横断道路に係ります房総縦貫道路、これは御答弁によりまして四百九号線、四百十号線という名称がつけられました。一応の基本的な計画があるように御答弁からは承ることが出来ます。

そこで、私もこの房総縦貫道路を早期に実現していただきたいと願う一員として御質問するわけでございますが、四百九号線、四百十号線という名称がありますので、これはどこからどの地域までが四百九号であり、四百十号であるか。その路線をいまい少し明らかにしていただきたい。そういうように考えます。

また、先ほどの御答弁の中に幅員の狭い地域があつて、それを広げようとして計画が実行された。しかし完成の年度は明らかではないが、そういう幅員を広げようという方向に向かつているというような答弁があつたと思います。この答弁にありました幅員が狭いから現実に広げて、これは四百九号線であるか、十号線であるかわかりませんが、要するに房総縦貫道路の一部分であるというように私は解釈しますが、その地域を明らかにしていただきたいと思ひます。

それから、国や県に働きかけをするという前向きな御答弁でございまして、御答弁のとおりです。房総縦貫道路をつくるための期成同盟が昨年ですか、ございまして、現実的には働きかけが行われているというように私は解釈します。そういう全体の働き

かけの中で、現在は県との対応、国との対応があると思ひますが、私の調査したところによりますと、まだ房総縦貫道路という線引きの計画、基本の計画が明確にできてないように思ひます。このへんをもう少し明らかにしたいので質疑しますが、この房総縦貫道路の計画がある以上は名称があると思ひますが、どういう名称の計画になっておりますか、名称があればお示し願ひたいと思ひます。当然工事の計画があれば名称が出てくると思ひます。その点について少し明らかにしていただきたいというふうに思ひます。私の質問の背景には一日も早く早期実現を願ひ気持ちがこめられてこういう質問になるわけでございます。よろしく願ひします。

二点目の件でございしますが、これは海水汚染の点でございまして海水汚染というのは御承知のように河川の汚染から始まっております。

最近の地方紙のニュースによりますと、富山町で小規模な公共下水浄化装置を取りつけるような工事を始めるように記事が載っております。そうした行き方につきまして当市の目指すところのものとしてそうした施設の違ひですね、非常に手早く工事に取ひかかり、早期完成を目指してこの汚染を解決しようというように各町村も動いてるように思ひます。

そこで、当市の計画としては昭和五十八年度にともかくにも公共下水道をどうしたいかという基本的な調査をするという説明が書いてありまして、非常に出足が遅いようにも感じられまして、そのへんを少し明らかにしていただきたいと思ひます。

まず、以上。

〇経済部長（山田俊康君）

国道の起終点の関係でございますけれ

ども、四百九号は神奈川県の川崎から成田まででございます。

四百十号は館山市から木更津市まで、主な経過地といたしましては、館山市から百二十八号を鴨川方向に向かいまして、丸山町から君津、袖ヶ浦を通りまして木更津市にまいります。君津の方は久留里線、袖ヶ浦の山谷というところでこちらから行きますと左折することになります。その位置から木更津までは四百九号、四百十号ともダブって認定されております。

それから、幅員の狭い部分ということでございますけれども、現在県事業で実施しておりますものでございます。君津郡の豊英地区で現実に実施しております。

この縦貫道路の改修にあつての基本計画事業の名称ということでございますけれども、現在のところ事業名はございませんで県の事業として実施しているのが実態でございます。

○民生部長（鈴木 力君） 海水汚染防止対策の関係でございますけれども、御指摘のございました富山町で現在建設を計画しております家庭用雑排水の共同処理施設でございますが、これは県補助事業によるものでございまして、家庭雑排水共同処理施設というところでございます。

これは、都市周辺集落また農村集落等大体二百戸ないし三百戸単位の集落で、公共下水道整備計画区域外の地域を対象としたものでございまして、そうしたもので富山町で現在建設にかかつてあるものでございますが、これを直ちに当市にあてはめることは必ずしも適当ではございません。このように考えているわけでございます。それにつきましてはやはり公共下水道計画との競合する問題、それからなお公共下水道計画を考慮しない場合におきま

しても各集落の側溝、排水経路の流末に処理施設を設置することになりますと、かなりの数が必要になるわけでございます。またその用地確保につきましても、かなり困難を来すわけでございます。それから投資効果等経済面から見ましても現在のところ疑問が持たれるわけでございます。しかしながら公共下水道の整備には相当の歳月を要するものでございますので、その間の対策といましてはいろいろ有効な手段、方法を用いまして今後検討してまいりたい。このように考える次第でございます。

○二〇番（石井武敏君） ただいま御答弁いただきましたが、第一点の縦貫道路につきましては、質疑の中で房総縦貫道路は四百十号線という名前であり、その路線は館山、丸山、君津、袖ヶ浦に至り、袖ヶ浦を左折して木更津に至る道路を指しているということが明らかにいたしました。この道路の建設計画ですが、当然国とのからみがあると思いますが、国の計画の上ではどのようなことになっておりますか、御説明願いたいと思います。

それから、第二点目の海水汚染につきましては、まず対策を立てる基本となるものは、どのくらい汚染されているかという汚染の認識から始まるように私は思いますが、現在館山市の海、河川の水質検査はどういうようにやっておりますか、どのように検査をなさっておりますか、御説明を願いたいと思います。

海水検査はよく夏前になると保健所で大腸菌の検査をやることを耳にします。しかしそれは海水浴場の安全のためにやるのが前提でありまして、もっと水質検査は徹底してやるべきではないかと私は考えております。

館山市には水質検査室がありますが、この水質検査室では、い

いわゆる海水汚染に必要な検査、たとえばBODであるとか、CODであるとか、DOであるとか、あるいはSSであるとかそうした海水汚染の調査の基本となる項目を調査できる施設が館山市の検査室にあるかどうか。また館山市の検査室でそうした検査を行ってあるかどうかをお答え願いたいと思います。

質問を先に進めますが、第三点目の青少年問題であります。これは勤労青少年ホームが建てられるということで、私は勤労者に限らず、青少年問題を考えますときに、青年層それから働く青年に至るまで幅の広い青少年を対象とした拠点の一つとして運営していただきたいというように希望しているものですが、この勤労青少年ホームをいま少くどういうような形態で運営なさっているかというところのか、概略を御説明たまりたいと思います。

次に質問を進めますが、防災計画についてであります。この中の無線にしまして、御答弁では個別無線はできない。こういうようにお答えがございまして、無線で利用できる電波には二種類あるというように聞いております。館山市で現在使っております防災無線の電波は一種類である。もう一種類使えるというように聞いております。私も素人でございますが、無線がだめならばパンザマストは計画できないか、それに関してお答え願いたいというふうに思います。

それから、災害にしまして私は二点ばかり要望したいんですが、災害が発生しましていわゆるパニック状態になったときに、身体障害者の人も、健康な人も一緒に逃げるわけで、対応するわけで、そうした際に身障者に対して身障者であるという目印の災害用のたすきかなんかをかけて動いたら、そういう人たちをまず

最初に救出することができるんじゃないかというように考えるんですが、この身体障害者に対して災害用のたすきを給付できないか、こうした考えにしましてどう思うか。これは要望とともに当局に考えるところがあればひとつお答え願いたいと思うわけです。

それからもう一点、避難訓練は非常に活発に行われております。そうした動きに対して住民も非常になじんできているというように私は理解します。ここでもう一步進めていただきたいのは、応急処置の方法を教育実施することでございます。いざというときには、災害時には医者と呼ぶこともできないし、非常に医者が少ないし、急に来ていただけないし、手配できないというところとで、どうしても囲りの人がやらなければならぬ場合ができるこうした救急の場合の処理の方法の教育これは当市としてはまだ行われていないように思うんですが、こうした教育を充実していくように配慮していただきたい。防災計画の中に加えていくかなんかの形で進めていただきたいというように思います。この点にしまして所感をお伺いいたします。

○経済部長（山田俊康君） 一点の国道の整備計画、国の場合にはどうかということでございますが、昭和五十八年度から始まります第九次道路整備五カ年計画の中に盛り込むようになっていきます。

○民生部長（鈴木 力君） 海水検査につきましては県が毎年度実施しておるわけでございます。なお市にございます水道水の検査あるいは衛生センターにも処理水の検査こういう設備がございませうけれども、これらは海水の検査に使用するということは考えて

おりません。

それから、防災無線の関係でございますけれども、これにつきましては、いわゆるバンザマスト方式これを設置できないかという御質問でございますけれども、これにつきまして過去いろいろの角度で検討しておるわけでございまして、これは必ずしも完全な情報を市民に伝える設備ということは現段階におきましてはいろいろの問題がございまして、この設置計画というものはなお将来の検討課題このように考えておる次第でございます。

それから、災害時の避難に際しまして身体不自由な歩行困難な者に対する扱いでございますけれども、避難につきましては関係機関の指示、自主防災会の避難誘導こういうことによつて安全を確保するわけでございますが、特に歩行困難な者に対しては家族とか、あるいは防災の役員の皆さん方に付き添ってまず第一に避難をしていただくようなことが必要であるわけでございまして、そういうことから、そういう方々に対する表示という意味でたすきをかけていただくのも一つの方法ではないか、このように考えるわけでございまして、自主防災づくり推進の中でさらに研究いたしてみたいというふうに考えております。

それから、避難訓練あるいは防災訓練の中の応急救護訓練の行政の対応でございますけれども、応急救護訓練につきましては、最近におきましては那古地区あるいは船形地区におきましてこのようなことは実施しておりますし、また各自主防災会におきましても応急救護看護班を設置いたしまして、応急救護班員の方々に講習訓練または広く一般を対象としたものの二つがあるわけでございまして、訓練指導機関といたしましては市にございます保健

課の保健婦あるいは広域消防、保健所、日赤こういう機関がございますので、これからもこれらの機関に依頼をいたしまして、防災訓練の中に特に応急救護訓練というものを対応してまいりたい。このように考えております。

〇二〇番（石井武敏君） 第一点の縦貫道路につきましては、御答弁によりますと、第九次国の五カ年計画の中に盛り込まれていいるという御答弁でございますので了承いたしました。

それから、海水汚染、河川の汚染についてですが、ちょっと答弁を私聞き漏らしたんですが、BODとか、CODとか汚染に関する水質検査というものは、市の検査室ではできない、施設がない、設備がないということで解釈してよろしいございしますか。

それから、災害の問題でございますが、身体障害者に災害用のたすきを給付する、これはひとつ検討していただきたいということとで要望いたします。

質問を先に進めます。次に、質問の大きな五点目でございますが、この中の福祉対策でございますが、この中にありますB型の老人福祉センターこれは余熱を使ってやる。小型化した老人センターであるという説明でございます。これは一〇〇%余熱で足りるのかどうか。たとえば現在の老人福祉センターも余熱でやることを前提としてつくられました。結局ボイラーを使いまして、ほとんど九〇%ボイラーでやっておるんですが、今度B型センターにつきましては一〇〇%予備のボイラー必要なくて、余熱で十分機能を果たせるかどうか、御答弁願います。

また、現老人福祉センターの整備につきましては、かねてから御要望申し上げておきました身体障害者用のトイレを設置すると

いうことになりましたし、大広間に冷房施設ができるということになりましたので、この点は了承いたします。

以上、何点か加えて御質問申し上げます。

○教育長（安田豊作君） 先ほどの第三点の質問、勤労青少年ホームの問題について、この勤労青少年ホームの建築事務については商工観光課が担当して現在やっておりますけれども、完成のあかつきは公民館と一体的な運営をということで私の方で準備を進めておりますので、その考え方について御説明申し上げたいと思います。

利用対象として考えられるのは、市内に住む中小企業に働く青少年十五歳から二十五歳まで約二千八百人、それから御指摘の一般青少年も一緒にということでございますが、これももちろん対象として考えておまして、十五歳から二十五歳まで約四千人を考えております。

この運営については運営委員会を設置すること。それから管理運営に関する条例を制定して、またこの議会でお願ひすることになると思います。そうして先ほど申し上げましたように青少年ホームの館長は中央公民館長が兼務して、そのもとに青少年ホームの指導員、それから社会教育主事というようなものが相協力して運営、管理にあたる。指導にあたる。こういうようなことをいま考えております。

○民生部長（鈴木 力君） 海水の水質の環境に関する検査につきまして、県におきまして毎月海域を検査しております。その結果が市の方にまいっておるわけでございまして、そういう状況でございますので、特に市の方の検査室を利用するということはな

いわけでございます。水質汚濁防止法の関係につきましては県が担当するようになっております。こういう法的な規定もあるわけでございます。

それから、なおただいま建設を計画しております老人福祉センターの入浴設備に対する余熱利用の関係でございますけれども、現在の計画におきましては入浴施設にも熱源につきましては焼却場の熱源を利用いたしまして、給湯設備によって直接給湯方式これによって施行する計画でございまして、熱源は一〇〇%いわゆる余熱をもって賄える。このように考えておるわけでございます。

○二〇番（石井武敏君） 水質検査につきまして、これは結果としてはどういう結果が出ておりますか、説明できれば説明していただきたいと思ひます。たとえば、いろいろと評価の段階があると思ひますが、どういう段階で評価するかわかりませんが、どういう段階にいるか、掌握していたら説明してください。

県ばかりでやって、市では検査してないように答弁から感じを受けるわけでありますが、ちゃんと市でも検査すべきではないか、他の町村でもやっているし、もっときっちりと調査すべきではないかと思ひますが、この点はどういう結果であるかということをお聞きしまして、質疑としては終わります。

○民生部長（鈴木 力君） 水質環境基準の関係でございますけれども、各海域あるいは河川につきましてはそれぞれ県におきまして環境基準に適合しているかどうかということを随時検査をしておるわけでございますが、館山湾につきましては、それからなお平久里川、汐入川この三カ所につきましては五十六年度の結果でございすけれども、県の方からまいっております。

調査結果を申し上げますと、まず館山湾の場合におきましては、A類型の海域でございまして、これは北条海岸を検査しておりますが、水質環境基準におきましてはCODが二PPM以下に對しまして、検査いたしましたところ年間平均でございしますが一・八PPMであつた。DOにつきましては基準が七・五PPM以上に對しまして、調査結果では七・四PPMで、これもすべて一応適合してゐる。

なお、平久里川につきましてはA類型の河川でございまして、これは昭和橋のところを検査しておりまして、BODの基準が二PPM以下でございしますが、これに對しまして四・五PPMでございました。なおSSの基準につきましては二五PPM以下に對しまして、検査が二二PPM。それからDOにつきましては基準が七・五PPM以上でございしますが、これに對しまして九・六PPM。

それから、汐入川の場合でございしますが、これはB類型でございまして、BODが基準が三PPM以下に對しまして九・五PPM、SSが二五PPM以下に對しまして一六PPM、DOが五PPM以上に對しまして六・一PPM、こういう調査結果でござい

ます。

議長(林 豊君) 以上で、二〇番議員君の質問を終わります。

次、一番議員神田守隆君御登壇願います。

(一番議員神田守隆君登壇)
○一番(神田守隆君) すでに通告をいたしました三点について御質問をいたします。

まず第一点は、ミッドウェー艦載機の訓練基地化問題について

であります。昨年の十二月議會で私がこの問題を取りあげて以降この問題は市民にとって大変重要な問題として重大な関心が寄せられてゐます。十二月の質問時点に比べても事態は着実に進行しているわけであります。

現在、国会で審議中の五十八年度政府予算案には約一千万円の調査費が計上され、去る三月四日の衆議院予算委員会第一分科会では、わが党の栗田 翠議員がこの問題を取りあげ政府の姿勢をただしました。栗田議員は防衛施設庁の小林連絡調整官が昨年九月に明らかにした調査対象施設六カ所百里、入間、浜松、静浜、館山、下総について、これらは厚木基地の夜間離発着訓練の代替飛行場の候補地には人口密集地が多く、爆音などの被害は重大だと追及しましたが、塩田防衛施設庁長官は人口密集地は考慮する重要な要件の一つである。その点も含めて調査していると答えてあります。現在の時点は大変に重要な時期を迎えているといふべきであります。

昨年の十二月議會で私がこの問題でただしましたが、市長はその時点ではまさかと思われていたのではないか。寝耳に水だとか、先走るのはどうかとか、慎重に對処するとかで、この問題についての態度を明らかにしませんでした。

現実に調査費が予算案に計上され国会でも具体的に名前が挙がつて論議されている。すでに県知事は昨年九月議會、十二月県議會で、館山を含む県内に訓練基地が来ることには体を張って反對するとまで表明をしております。下総周辺の市長、町長も一早く反對の態度表明をするばかりか、鎌ヶ谷市などでは住民の反對集會に代表を送ったりして住民の運動を励ましています。

私は、この問題で半澤市長が訓練基地化にまさか賛成だとは思いません。きっぱりとした反対の態度表明をするべきであると思います。市長の所信をお聞かせ願いたいと思います。

第二点は、市の保健活動について市長の所信をお尋ねしようとするものであります。

胃の集団検診について五十八年度から五百円と有料化されるようであります。年三千人ほどが集団検診を受けていたが、これまでは無料でありました。こんなことでは受診者は減少し、保健活動の後退そのものではないか。

もともと、日本人はがんの三分の一は胃がんと言われるように胃がんが多い民族的体質を持っています。しかも胃がんの治療水準は世界一で、第一期と言われる初期のがんでは九五%の人は治っています。早期に発見しさえすれば全く恐れる病ではなくなりました。めんどろがらずに定期的に検診さえ受けていれば死ぬことはほとんどないと言えます。早期発見のための検診体制の整備が望まれるところであります。

館山市は、これまで胃の集団検診など一早く進めてまいりましたが、いまその受診率の向上が望まれているときに、これを有料化する。これはどう見ても命を大切に政治とは言えません。市長の所信をお聞かせください。

第三点は、選挙公報の発行についてであります。さきの臨時会においてポスターの公営掲示場への制限する条例の審議にあたり市民に候補者の主張、人となりを知らせていくことの重要性を訴え、選挙公報の発行を主張いたしました。選挙が候補者への投票であることから、各候補者の主張、人柄などを知らせていくのは

当然のことであります。当局もこのことに理解を示しながらも、市内の印刷業者にその能力がないから見合わせたとしています。しかし私自身も市内の印刷業者などに直接うかがって話を聞いたところでは、市内の業者の能力はむしろ十分ではないかと思うのであります。いまからでも遅くはないから、選挙公報の発行に踏み切るべきではないか、当局の所信をお聞かせ願いたいと思います。

以上、三点にわたって御質問を申し上げます。御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 神田議員の御質問にお答えをいたします。

第一点は、ミッドウェー艦載機の訓練基地化問題についてでございますが、昨年十二月定例市議会でも申し上げましたとおり、公式にも、非公式にも具体的な情報を得ておりませんが、沼田県知事が十二月六日県議会の所信表明の中で、防衛施設庁に対し、その見解をただしたところ、同庁は昭和五十八年度予算に調査費を要求しており、一年以内に結論を出したい。仮りに基地が候補に上った場合、事前に県及び地元市町村には十分相談する旨の説明があったと述べられております。またこの三月三日県議会でも同趣旨の答弁がなされております。

現在、関東周辺の大規模な施設が当面の課題となっておりますが、もし館山基地が候補に挙げられますような場合には、住民の安全と生活環境を守る立場からもちろん反対してまいる所存でございます。

第二点、胃検診の有料化の問題でございますが、胃部検診の自

己負担については費用の一部を徴収することができる旨老人保健法で定められており、自分の健康は自分で守るという原則により費用の一部を受診者が負担することにより、みずからの健康管理は自分の責任で行うという意識の高揚を図ることが大切であると考えます。

この費用の一部を徴収することについては、保健調査会の常任理事会並びに健康づくり推進協議会で検討された結果、その意思を尊重して徴収することに決めたものであります。ただし、老人保健法により医療を受けることのできる者、生活保護世帯に属する者、市民税の非課税世帯に属する者は無料といたします。

次に第三点、選挙公報の問題でございますが、この発行につきましては、その重要性を考えまして選挙管理委員会事務局に検討いたされましたが、原稿締め切りから配布終了までの期間が七日と制約される関係で、時間的に無理があるということで断念することになりました。

以上、答弁を終わります。

○一番（神田守隆君） ミッドウェー艦載機の問題につきましていまの市長さんの答弁、そうした候補地に挙げられるということにそういう時点の中ではもちろん反対していくと。こういうようなことでありますから、市長の態度としては反対の態度表明こういうことで受けとめてよろしいというふうに思うんですけども、さらに一步を進めまして、候補地に挙がるというその時点よりいまの時点でやはりそういうことのないようにというような態度なりで国、防衛施設庁等に申し入れをして、そこまで突っ込んだ考え方はどうなのかということについてお聞かせ願いたいという

ことです。

○市長（半澤良一君） まだ問題が起こってない段階でこちらから申し入れをすることもどうかと思いますので、そういう意思はございません。

○一番（神田守隆君） 私はそこまでやってもいいというふうに思うわけですが、この時点ではとにかく市長としてはそういう事態に対しては反対だということ受けてとめてよろしいというふうに、そういうことでいいわけですね。

○市長（半澤良一君） おっしゃるとおりです。

○一番（神田守隆君） 次に、第二点の保健活動の問題について、自分の健康は自分で守る、これは大変そのとおりだろうと思うんですが、しかしそういうことを言って現実的な問題の解決にはならないんじゃないかと思うわけです。

実際、受診率の見込み、胃の集団検診ということを一つの例に特に挙げて現実的に見てみたいと思うんです。実際五十八年は有料化ということになると、受診率の見込みとしては従来に比べて上るのか、下がるのか。これについてどういうふうに御見解を持っているのか、お聞かせ願いたいと思います。

○民生部長（鈴木 力君） 胃集検の検査料を徴収した場合、受診率が低下するかどうかということでございますが、これは必ずしも低下するということには見ておらないわけでございます。

○一番（神田守隆君） 必ずしもというんですから、現実的に五十八年度の胃の集団検診は二月中に締め切ったと思われませんが、その概算見込みが出ておると思うんですが、その数字をお示し願いたいと思うんです。

○民生部長（鈴木 力君） 五十八年度の胃がんの集団検診これに

つきましては二月末日までに各町内会を通して希望を取りまとめしたわけでございますが、未現在におきましては千八百五十名という方が一応申し込んでおるわけでございますが、これにつきましては館野地区あるいは神戸地区につきましては総合検診という事で計画を立てておりますので、その二地区につきましては入っておりませんし、なお二月末で締め切りはいたしましたものの、まだ御回答いただいてない町内会もかなりあるわけでございますので、最終的には従来三千名程度、この程度の受診者はあるんじゃないかなろうかというふうに推測をいたしております。

○一番（神田守隆君） 従来三千人前後ということでだんだんふえてきていて三千人を超えるぐらいの人数になっていたかと思うんですが、現時点で千八百五十名、しかし今後いろいろふえる見込みがあるんだということとおっしゃるわけですから、そうすると必ず三千名を超えると、例年にふさわしいだけの人数を確保できるということで責任を持てますか。

○民生部長（鈴木 力君） 現段階におきましては確約はできませんが、できる限り受診していただくような方向でもっていろいろと努力をいたしまして、そのような数字を確保したい。このように考えております。

○一番（神田守隆君） 先ほど、市長は自分の健康は自分で守るというような、こういうようなお話もありましたけれども、大変当然なことなんです。ですから健康手帳をやるとか、いろいろな施策を通して各人が胃の集団検診を受けるというふうに進むことが本来のあり方であって、行政はそれをお手伝いするという立場だ

と思うんです。しかし行政がお金を取ることが各人の健康に対する各人の責任をうながすということではないだろうと思うんです。そのへんについて、どうもさっきの市長の答弁というのは行政の責任というものとは違った、行政が本来やるべき責任とは違うんじゃないかなろうか。むしろ無料のもつとでさらに受診率を高めるということが本来の保健活動の中でやるべき仕事なんではないかというふうに思うわけです。

したがって、受診率の問題ということで特に問題を出したわけですが、千八百五十名最終的には三千名ということによって言うわけですけれども、大変むずかしいんじゃないかなろうかという気もするわけです。こうした数字からはむしろ受診率の低下という事態が心配される。それだけにやはり大きく受診率が落ち込むような事態に対しては、やはり有料化という問題が一つの重要な問題点だろうというふうに思うわけで、そうした事態に対しては、責任を持つということとはもう一度考え直すということが必要なんじゃないかなろうか、こういうことから質問しているわけで、受診率の大幅な低下という事態があった場合、やはり考え直す必要があるんじゃないでしょうか。いかがですか。

○市長（半澤良一君） この問題につきましては大変微妙な点もございまして、費用を徴収することによって受診率が下がるんではないかという懸念をする考え方もあるわけでございます。そういう意味で、保健調査会の常任理事会あるいは健康づくり推進協議会の委員の方々に意見を伺いまして、大変意見が——いまおっしゃるように受診率が低下するだろうというような意見もございしたけれども、大勢はかえってその方が受診率が上がるんだとい

御意見でございました。その意見を尊重して取することに決めたくてでございます。

○一番(神田守隆君) そのいきさつについてはわかりましたけれども、具体的に結果がどう出るかということは初めてやることです。結果がこの半年ぐらいの間におそらく出るんだろと思いますが、その結果を見てやはり再検討しなければならぬじやなからうかというのを十分考えていたいただきたいと思ひます。

次に、保健事業の問題で、老人保健法の中で言っていることといふのはいわゆるヘルス事業、この事業の中の一つに胃の集団検診という問題があるわけで、胃の集団検診というのは従来やってきた制度がむしろ後退するという危惧を持つわけで、保健事業全体をどう進めていくかという視点から、現在市の持っているヘルス事業、どういう大綱や考え方を持って進めようとしているのか、六十一年度までという期限もあるわけですから、そのような柱なり、考え方を示していただきたいと思ひます。いかがですか。

○民生部長(鈴木 力君) 市におきますヘルス事業の今後の計画でございますけれども、国におきましては老人保健法のいわゆる保健事業につきましては、いわゆる段階的に事業を進める。こういうことでございまして、厚生省の案といたしましては昭和六十一年を目標に、たとえば一般検診——これは循環器検診でございますけれども、大体昭和六十一年までには対象者の五〇%を目標としております。それから胃がんの検診につきましては昭和六十年度を大体三〇%、子宮がん検診につきましては三〇%というふうな厚生省の計画目標でございますが、市におきましても、たとえば胃集検については昭和四十二年から他の市町村に先がけ

て継続的に実施しております、かなり実績を上げておるわけでございまして、したがひまして老人保健法が施行されていまして以上を受診率も高めるし、また検診効果も高めていきたい。

このように考えておるわけでございまして、問題としましてはいわゆる検診体制というものがあるわけでございまして、いかに行政におきまして保健事業を高めていくという計画がございしても、それを受けてくださる医療機関、検査機関そういうものの協力がなくちゃならぬわけでございますので、そこらが現在問題点でございますが、いずれにいたしましても、保健法でいういわゆる四十歳以上の壮年期にある年齢の方々からこういった検診事業というものは一層力を入れて事業を進めていく。こういうふうに考えておる次第でございます。

○一番(神田守隆君) 六十一年三〇%の、胃の場合こういった目標ということで国から示されている。これは市としては実施していきたいというふうに、いまのお話ではそういうふうに受けとめられる。そういうことでよろしいんですか。

○民生部長(鈴木 力君) そのとおりでございます。

○一番(神田守隆君) そういう検診の問題と、それからヘルス事業の中で特に強調、いろんな柱があるわけですが、在宅老人の機能回復訓練の問題これまでいろいろ論議されてきた経過もありますけれども、老人保健法の中で取り上げられる問題、これまでは人材の問題がどうか、なかなかその実施に踏み切れなかったわけですが、こうした老人保健法というふうな新しいワタの中で在宅老人の機能回復の問題、こうした問題は館山市の中でも保健事業、ヘルス事業として取り上げていく、こういう

ようなお考えは現在の時点ではないんですか。

○民生部長（鈴木 力君） 老人保健法によります保健事業につきましては、老人の機能回復訓練ということが事業の一環とされておるわけでございますが、これにつきましては館山市におきましても館山病院あるいは伊賀病院等におきまして、こういう訓練的なものをやっておるわけでございまして、また特別養護老人ホームの中にも脳卒中に關しましての後遺症を回復する訓練というものもございまして、一部やっておるようでございますが、市の行政といたしましてはこの問題いろいろ訓練をする資格のある理学療法士ですか、そういった方の確保という問題が非常にむずかしいわけでございまして、将来におきまして機能回復訓練というものは考えていかなければならないであろうということは、現段階におきましてはいろいろ考慮しておる次第でございます。

○一番（神田守隆君） 話が広がりますから、保健事業全体についてはまた別の機会の中で十分市としてのいわゆるヘルス事業の柱それをどういうふうに立てていくかという議論は大いにやっていきたいと思えますけれども、きょうのところはこの問題については一応このぐらいにして、再び胃の検診の問題に入りますけれども、結果的に胃の集団検診が受診率が低くなるというようなことになるかと大変憂慮されるんですけれども、実際には自己負担といつても百五十万円というような負担で、しかし胃の集団検診にたまたま漏れたという中で胃がんの人が出たということになれば、実際に皆さんの医療費負担ということで莫大な費用を負担をしなければならない。そういうことから見ても、結果的に財政的な目から見た場合に予防医学といえますか、そうしたものの充実をさ

せていくということが結果的には医療費の節減というものにつながるのではないかと。こういうふうに考えるんですけれども、とにかく有料化しても受診率をむしろ向上するんだというようなお考えに立っているから、そういうことは議論にならぬということなのかどうか。そういうふうには考えられませんか。

○市長（半澤良一君） どうも神田議員さん、金を取ったら必ず受診率が下がるんだという前提のもとにお考えをお進めのようにございしますが、私どもは受診率を下げることは困ることを前提に考えておるわけでございます。それで先ほど申し上げましたように保健調査会の常任理事会や健康づくり推進協議会で、主に発言なさったのはお医者さんでございましたけれども、お医者さんの意見はむしろ取る方が受診率が高まる。そういう意見でございまして、ですから、神田議員のように金を取ったら下がるんだという前提でものを考えることはどうかというように考えておるわけです。

○一番（神田守隆君） この話はもう議論が全然平行線の話が進まないようでございます。質疑はこれで終わりにしたいと思います。次に、選挙公報の発行についてですが、時間的な制約があるというところで断念したということでありましてけれども、実際に具体的にもう少し説明願いたい。

時間的な制約というのは、実際には印刷と配布というふうなことだろうと思えますけれども、具体的な検討経過というふうな、何日というふうな考えられ、具体的に印刷の問題で、業者の問題というところで特に触れられていたので、業者との相談がどういうふうなされたのか、そこらについての御説明を願いたいと思

います。

○選挙管理委員会事務局書記長（蜂谷達二君） 公報の発行の件でございすが、先般印刷に時間がかかるということで見合わせたというふうにお答えしてございますけれども、具体的な選挙公報を発行する事務処理日程といったことでございますが、立候補の締め切り、それが原稿の締め切りになります。これが告示の翌日の午後五時ということになります。それから印刷の準備にかかるわけでございますが、印刷の準備には原稿の内容の点検、一応五百字というふうに制約がございしますので字数の問題とか、内容につきましても掲載文章が中に不適當と申しますか、要するに利害誘導に関するもの、選挙の公正に関するようなものが記載されておる場合には、これはいけないというようなことでございますので、内容の審査事務と申しますか、そういうこともあります。それが終わりました掲載の順序、各候補者の掲載順序を選挙管理委員会がくじで決めるということでございますが、そういった仕事がございます。その後において印刷に発注することになります。ポスター掲示場の時点と同じ時期十一月に市内の主な印刷業者と選挙公報につきましてお話を伺ったわけですが、当初は一番市内でも印刷能力、設備等の整った業者で四日はかかるというお話でございました。もう少し何とかならないかということで詰めていったときに、最終的には三日できると、印刷は何とか三日できるといってお答えがありました。そういうことで印刷に三日かかるということでございすと、納品がなされて印刷の仕上がりについての検査と申しますか、点検をしなければなりません。とかく公報につきましては、御承知だと思いますけれども

印刷のでき上がりがいかによりまして従来からトラブルが生じて印刷をし直したという事例もございます。そういった関係で、今度市の選挙の場合につきましては、市の選挙管理委員会が全面的に責任を持たなければなりませんので、念入りに印刷の仕上がりの点検をしなければならない。こういう仕事がございます。

それから、配布でございますが、配布の準備をするわけですが、当市におきましては市の地域担当職員二百五人にお願いして配布を従来の国、県等の選挙につきましてはやっておるわけでございますが、この職員につきましても一斉に配布に出るといいうわけにまいりませんので、従来大体三日程度かかっております。事務に支障のないようにということでもありますので、おおむね三日あるいは四日かかったときもあつたかもしれません。

それで、配布の时限でございますが、これは選挙期日の前二日までというふうになっておりますので、その間、原稿の締め切りをしてから、その翌日から起算して配布时限の選挙期日前二日までが要するに七日間ということになるわけです。

そういった手順を踏んで考えた場合に不測の事態、印刷等の問題、それから配布等の期間の問題で不測の事態と申しますか、そういった何かあつたときに全然余裕がないわけでありまして、選挙管理委員会としては、選挙公報ということでございますので、慎重にある程度の期間的余裕をもって行わなければいけないと、こういうことで慎重に考えまして、今回は踏み切ることができなかったということが実情でございます。

○一番（神田守隆君） 選挙管理委員会で踏み切ることができなかったというのですが、私に見れば大体これくらいのあれで

あれば、実際の各市町村の状況といってもそんなに変わらないと思いますので、できるんじゃないか、これは見解の相違になるかと思ひますけれども、この問題についてこれ以上の質疑はいたしません。

以上で、終わります。

○議長（林 豊君） 以上で、一議員君の質問を終わります。

次、一八番議員流山源次郎君御登壇願います。

（一八番議員流山源次郎君登壇）

○一八番（流山源次郎君） 私は今日、議員生活最終年の三月議会に臨み、新年度の予算審議が始まった中において次の三点を柱として通告質疑を行います。

一に行政改革、二に水産行政、三に福祉の件について御質問を申し上げます。

まず、大綱の一つといたしまして、国の行政改革と館山市の予算の関連についてお尋ねをいたします。前鈴木内閣によって打ち出されました国の赤字財政の立て直しのための行政改革臨時調査会が設けられ、土光氏を会長とする審議会へのメンバーによる答申が次々に発表され、近く最終結論による取り組みが行われようとしておることが新聞、テレビ等によりほとんど毎日のごとく報道されております。また行革に対し保守、革新それぞれ意見が割れておりますが、私は行革賛成の立場に立って次の三点を御質問申し上げます。

増税なき行革を本旨としている現状においては、地方自治体への補助金等においては相当きつい面が打ち出されつつあります。財源の少ない館山市にとって財源不足のしわ寄せがあることは当

然考えられることでございますが、物価指数は上昇する、予算は削られるのでは、常識的に見て苦しい予算編成となるのではないのか。館山市における景気浮揚対策等が厳しくなるのではないかということが考えられますが、行政上の立場からの見通しをお聞かせ願います。

次の点は、公務員に対する人事院勧告が凍結され、現在この点につき与野党間の激しい攻防が行われております。政府の言い分は国の赤字解消のために公務員も同じようにがまんをしろという考えである以上、本年は凍結の線が強いと思われれます。国に準じて県、市町村職員に対し同じように凍結に従わざるを得ないのが現状だと思ひますが、これが来年、再来年と繰り返される心配はないのか。もしあるとしたならば、市の職員の生活給の圧迫となることは明白であり、これに対する御見解をお聞かせ願います。

さらに、次の点につきお聞きいたします。現在自主財源の少ない市として行革によるところの最低必要限度の予算確保は可能かどうか。また市独自としてはどのような行革を進めていく考えなのか、その内容をお聞かせ願います。

第二番目に、水産行政について御質問いたします。新年度予算の中にもうたわれているところの育てる漁業を強調されておりますが、将来どのような規模の養殖事業を計画されておりますか。

第二に、現在まで実施されてましたクルマエビの放流についてお聞きいたします。市が県とともに漁業予算として毎年クルマエビ放流の予算計上をしてくれることは漁業に従事するものにとつては非常にありがたいことで、水産に関連しておるものは感謝しておりますが、その成果が科学的にはっきりと掌握されていない

のが現状の姿ではないでしょうか。確かに放流前と放流後の二、三年間ではクルマエビ捕獲の網を積んだ船の数が十倍にふえたという面からながめた場合、確かにクルマエビは増殖に成功を見たと言えると思います。

ここで、お尋ねしたいことは、放流予算は市民の血税から出ていることを考えあわせ、クルマエビ漁業者一人一人の自覚も大切ながら、行政指導等漁業協同組合と連絡を密にして、科学的な成果の一日の早からんことを期待するものですが、現状はどうなっておりますか。

ただ、これ以外に市の考え方として、県が認めるからその案分割当をして市で出すのだというだけのものなのかどうか。お聞かせ願います。

第三は、第一次産業である水産業の将来をどのようにお考えですか。たとえば高中卒者の漁業後継者への希望皆無にひとしい現実ゆえに、人的資源不足による漁業の消滅を待つ考えなのか。さらに高齢化して海上労働に耐えられなくなった老漁民たちはまだ働く希望を持ってゐる。観光と結んだ生活協同組合組織化等のものを漁協と話し合つて、たとえば干物センター等をつくるのか、監視員に何らかの手を尽すとか、そういう働く場所を多少でも与えることはできないだろうか。この点をお聞かせ願いたいと思います。

四番目の問題点は、毎年繰り返される一月、二月の冬枯れの季節に、市の保証によるところの融資資金の貸し出しの方針はいまだに不明でございますが、将来どのように考えられておりますか。最後に、第三番目の福祉対策についてであります。その一点目

として、民生保護の例をとって考えますのに、これは国の福祉に対する法律に基づいて手続をとっているのは十分わかりますが、その法のみにとらわれないで、世間一般の目があの人には民生保護を受ける資格者だと思つていた方がわずか十万円、二十万円の貯金なりで却下されつつある。他の者は生命保険解約を条件にされたと訴える。病院生活も十日間ともなれば付添婦の保険で適用されないもの等から見れば十万円ぐらひはすぐに飛んでしまふ現状でございます。

これをお考え合わせたときに、民生保護これを一步前進して、この人たちが民生保護から抜け出そうというときに、抜けたときに何か自分の支えになるものがわずかばかりの保険金で積んでおるものが解約されて何もないと、力にならないというような現実をお考え合わせまして、この点についての市として愛情ある御回答を願いたいと思います。

たとえば、困窮者に資金を貸すという制度はうたわれておりますが、その人が金を借りに行った場合に、病氣ゆえに困つておるからというので申し入れたところが、次の月から返せますかということで、病氣になつておる人がまだ治らないうちから働けないので、次に返すといつてもこれは不可能でございます。そのため貸す規則があつても貸し出しがなかったというようにことが現実として起こつております。ただ与えるばかりが福祉ではないと言ひながら、愛情ある福祉はこういつたところに何かごまかしがあるんではないかと思つてございます。この点につきまして市のお考えをお聞かせ願いたいと思います。

次に、身体障害者の福祉作業所についてお尋ねいたします。現

在十数名の入所者が毎日毎日あすへの希望を抱いて仕事に取り組んでおるということを聞き、さらにこの福祉作業所は現在県外にもその実績が認められているが、その維持管理費はどのようなものか。またここで働き力をつけた者が将来一般社会に復帰可能なかどうか。その点もお聞かせ願いたいと思います。

御答弁により再質問をしたいと思います。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 流山議員の御質問にお答えをいたします。大きな第一点は、国の行政改革と館山市の予算の関連についてでございますが、小さな第一点市としての景気対策はできるかという御質問でございますが、御案内のように国、地方を通じて厳しい状況下にあります。市として景気対策ができるかというところでございますが、地方財政は国の行財政が持つ景気調整機能に對して、教育、社会福祉、生活環境の整備などの社会資本の充実を初めとする住民福祉の向上を図るための諸施策を推進するため景気の動向いかにかわらず、その財政規模に応じて展開していかなければならないと考えます。

しかしながら、他方、地方公共団体が持つ国民経済における地位、役割りの重要性から、国の総合経済対策の重点課題である内需の拡大を基調とする景気対策を初め国民経済の健全かつ安定的発展を確保するため、国の経済政策への協力にも配慮することが要請されます。

当市といえども、五十七年度におきましては国の経済政策の一環として実施された公共事業等の上半期集中施行につきまして、市単独事業を含めて実施してまいりました。また今後にお

きましても財政運営の健全性を確保しながら、国、県に呼応してでき得る限りの範囲内におきまして投資的経費の拡大、産業基盤の整備などを推進してまいりたいと考えております。

次に小さな第二点、市職員に対するベースアップの問題でございますが、この件につきましては従来から県に準じて取り扱ってきているところでございます。しかしながら今年度の給与改定につきましては国及び県においていまだ最終的結論が出ておらず、その動向を見守っているところでございます。来年度につきましては給与改定の勧告を尊重するという基本姿勢には変わりはありませんので、勧告によって県が改定をした場合にはこれに準じて実施する考えでございます。

次に、小さな第三点についての御質問でございますが、今後の行政需要に対応する財源確保についての御質問でございますが、去る一月二十九日大蔵省が今国会に提出いたしました五十七年度から六十一年度までの財政の中期試算を見ますと、その規模はいずれの年度におきましても六兆台という低い伸び率であり、特例公債につきましても五十九年度赤字国債発行ゼロの目標を修正し年次的に解消するとの方向を示しております。

また、五十九年度以降の国税収入の伸びは六・六%と低く、歳入歳出の調整を要する額も巨額に上るなど、将来の経済情勢、財政状況の厳しさを示しております。

このような国の財政展望を受けて、地方財政も一層深刻の傾向にあると思わなければならないと思いますが、第一の御質問にお答えいたしましたとおり、今後とも市財政の健全性を堅持しながら、地方財政の役割りと行政需要に対応するため、関係機関との

連絡の緊密化による所要財源の確保を図るなどの措置を講じながら、必要最小限度の予算編成を行い住民福祉の維持向上に努めてまいりたいと考えております。

また、行財政運営適正化につきましても、臨時行政調査会の報告で地方行政の減量化、効率化についての種々の提案がなされているところでありますが、当市においては国に先がけ五十年以来新規採用の抑制、事務処理の電算化、民間への業務委託などを積極的に推し進め効果を上げており、これからも事務事業の見直しを一層行い、行財政運営の適正化を図っていく所存でございます。

次に大きな第二点、水産行政についてでございますが、その第一点育てる漁業についての御質問でございますが、当市においては育てる漁業として昭和五十七年度クルマエビ、アワビ、ハマグリ等の種苗放流を実施しております。そのほか磯根資源の維持培養として築磯、魚礁、中間育成用築磯等の漁場造成事業を実施しております。

近年、魚介類の水揚げ量の減少に伴い県においても栽培漁業センターの設置によりつくり育てる漁業の実現を目指して各種の事業を推進しておりますが、当市においても今後は魚類を含めた各種の種苗放流、築磯、魚礁等の事業を積極的に推進していきたいと思っております。

第二点、現在までの種苗放流の結果の問題でございますが、現在まで実施した種苗放流はクルマエビが昭和四十五年度、アワビが昭和四十八年度から放流事業を実施し、関係漁協の適正な管理指導により効果的に運営されてきましたが、これからも漁業者みずからが資源培養、管理型漁業をより自覚して、関係漁協と漁業

者が一体となって放流事業を推進していくよう指導していきたいと思っております。

第三点、水産業の将来をどう見るかという御質問でございますが、館山市の漁業は沿岸漁業であり、最近における漁場及び資源の衰退、若年労働力の不足、そのほか経営を維持していくうえに幾多の問題点がありますが、沿岸漁業で重要な役割りを果たしております磯根漁業の振興、人工種苗放流事業の充実、養殖事業の開発等により水産振興を図っていききたいと思っております。

高齢者の雇用対策につきましては、水産業ばかりでなく各層にわたる問題でございます。特に出漁できない高齢漁民の雇用対策という御質問でございますが、やはりいままでの経験を生かし、養殖場の監視を初め御光漁業との結びつきの中で、漁協ともども新しい雇用の場を考えてまいりたいと思っております。

第四は、一、二月の不漁対策として市の保証による融資対策等の考えはないかとの御質問でございますが、漁業におきましては毎年一月、二月は不漁期といわれ、漁業者はこの対策に苦慮しておられるように聞いております。この期間を対象とする制度資金はございませんので、市といたしましては漁協を初め県、関係機関と協議し、漁業者の経営合理化等により自立、自営できるように方向で指導してまいりたいと思っております。

次に大きな第三点、福祉対策についてでございますが、まず第一点の生活保護の実施にあたりましては、その世帯の自立助長を目的といたしまして、その保持する資産、能力、扶養義務者などにより最低限度の生活を維持するために活用することが要件となっております。したがって、世帯個々の実態について厳正な

調査を行い、実情に即した処遇を行ってあるところでございます。

次に、第二点の福祉作業所に関する質問でございますが、福祉作業所には現在十七名の在宅心身障害者を対象にボールペンの組み立てや、七宝焼などの作業指導と集団生活指導を行っておりますが、最近入所者の増加により指導員も二名から三名に増員いたしました。施設の充実と円滑な運営を図っております。

なお、昨年から通所に困難な身障者に対しては、車による送迎をいたしまして通所の便宜を図っておりますが、今後とも心身障害者の自立助長のため、必要に応じてその充実を考えてまいりたいと考えております。

以上、答弁を終わります。

○一八番（流山源次郎君） ただいま市長の御答弁によりまして、私の申しあげたことについてある程度の御回答をいただきましたが、二、三細かいことを再質問申し上げたいと思います。

市といたしましても、非常に苦しい財源で市の執行部の方たちが努力しながら新しい予算をつくっていることに敬意を表しますが、非常に大変だと思いますが、今後ともよろしく願いたいと思います。

ただ、その中で、先ほど従業員のベースの件につきまして、私としては今年は出せないだろうが、来年度以降はどうなのかというところで、一応県の決定に従うような答弁がございましたが、実際生身の人間を持つてゐる関係で、また来年度、再来年度になって国の財源がないとかんとかいうことで県がやらなかったら、館山市としては生身の従業員を見殺しにするのかどうか、この点についてもう少しわかりやすく、親身のこもった直接の御回答を願

いたいと思います。

○市長（半澤良一君） ベースアップの問題大変むずかしい点もございまして、来年度のことはいくまのところ予想がつかないわけでございますが、どうも仮定の問題でなかなか答えにくい面がございますが、御質問の趣旨は来年度も国や県がベースアップしなかった場合、館山市もベースアップしないのかという御質問でございますが、いろいろ国の強い指導がございまして、もし国の方針に従わない場合には交付税をその分だけ減額するというようなペナルティが課せられます。そうした事情等も勘案しなければならぬ。それだけ市の財政が苦しくなるわけで、市民に負担がかかるという形になりますので、いまここでその場合どうするということとはなかなか申し上げにくいわけでございます。そのときになりましたら周囲の事情等を勘案しながら決めたいというふうに考えております。

○一八番（流山源次郎君） 私の質問が非常に無理のように思いますが、市長さんの回答の中で市の職員に対する——自分なりに汲み取りまして、予算のやりくりではかの行政一般を何とか切り抜けてやっていくというようなものと同じように、職員の方も何とかしてくれるんではないかということで、自分なりに希望的な考えでございますが、いいようにということで、この線は打ち切らせていただきます。

養殖のクルマエビの件でございますが、これについて科学的に私としてはとったものがどういう経路で、どうなっておるのかと、これがそのまま終わってしまいますと、市にも監査もございすし、また国、県の監査を受けた場合に、せっかく使った予算が

何ら具体的に実を結ばないということになってきますと、われわれ漁民に対する温かい予算がカットされてしまった場合には、自分で自分の首を締めるという結果でございますので、地元の漁協の役員等に漁師の個人個人の自覚とかそういうことは機会あるたびにお話しているわけでございますが、市の方としても漁協あたりとそういった点でどのような話し合いを持ったか、具体的にこの線を一言お聞かせ願いたいと思います。

それから、さらに本年度の予算ではアサリの放流がうたわれております。御承知のとおりバカの繁殖が盛んになりましたが、これは現在磯根漁業で組合が権限を持っているわけでございますが、館山市の一般市民とか、そこに入ってくる観光の方々が一つや二つのものを浜でとるという楽しみはありますが、悪質な業者が大量にとつておるといことが問題になっております。せっかく予算を使ってアサリを放流しても、クルマエビと同じように放流しました。後はどうにもはつきりした線が出ないということでは、何か一つの行政をする、予算を施行するという線におきましては、なにかしら非常にわれわれとしては大まかな感じがするわけでございしますが、この線についてももう少し具体的な御回答を願いたいと思います。

○経済部長（山田俊康君） クルマエビの関係でございますけれども、先ほど市長から申し上げましたように四十五年から放流事業を実施しております。事業費といたしましては五十七年までに千四百十九万五千円、金額にいたしましてそれだけの放流をいたしております。放流数量としては百十一万三千尾、水揚げが五千九百九十五キログラム、水揚げ金額で二千四百九十万円ということ

でございます。使いました事業費千四百万円、水揚げが約二千五百万ほどになっております。

なお、先ほど御指摘のありましたように一部漁業者が直接漁業会に水揚げしないで旅館、料理屋等にといことを一部仄聞したことがございます。これらの問題につきましては、そのようなことのないようにということで五十七年度中にも何度か組合の幹部と話し合いをしております。現実には漁業協同組合に一切を揚げるといような方向で今後とも推移していくものと期待しておりますし、市長から申し上げましたように漁業者一人一人の自覚ということですからカバーしてまいりたい。このように考えております。

アサリの問題につきましては、やはりある業者がこの地域で放流ということで二年ぐらい前にやったことがございますそうです。その場合にも一部御指摘のありましたように、それを知った人が持ち去るといようなことがあったやに聞きます。現実の問題としては木更津周辺でやっておりますものは、やはり監視がついてそれらができないようになっていくわけでございますが、そういったものも含めまして慎重にこれが増殖を図ってまいりたいというふうに考えております。

○一八番（流山源次郎君） わかりましたが、ただ私が言っていることは漁民の自覚ということを申し上げましたが、漁民の方が売り上げをごまかすということは私は言っていないわけでございまして、それは市の方でも了解していただきたいと思います。問題は、漁業の性質上クルマエビなんかはどうしても生きているときに非常に生産価値があり、販売価値があるわけでございますが、漁協

に渡しても、旧館山漁協の方では専門にやっておったために水槽等ある程度それを生かすという制度もあるし、ところが船形漁協の方ではサバとか、カツオ大きなものを扱っておる関係上、そういった細かいもので施設をすることができないというハンディもあるし、また漁協の関係上早朝に操業するというような線もありますので、こういった面で施設の件とかそういうものは市の水産課の方と、また漁協の組合と十分それらについて十分御検討願いたいと思います。

それから、福祉作業所の件でございますが、福祉作業所は市の方の考えとしてはどのくらいを限度として予算措置をするのか、今後とも予算措置がどのくらいの人間を収容できる、これ以上はもう入れないということなのか。それともそういう人が出てくれば後から施設を拡充するとかそういうことで予算を組むのかどうか、この点をお聞かせ願いたいと思います。

それから、先ほど市長の答弁の中にもポールベン等もつくらせておるとい話がございましたが、そのほかにどういふものやっておるか。またその仕事がなくなってしまった場合には、身体障害者の方があそこ来ても何らの収入も得られないというような悪循環になってくるんじゃないかと思われまして、この点について仕事探しとかそういうことは作業所の職員の方に全部まかしてしまっているのか。それとも市としても広い範囲で館山市また多くの県内にそういった仕事のあっせん方を依頼しているのかどうか、その点をお聞かせ願いたいと思います。

それから、福祉作業所の中で三年、四年とたちますと、ある程度仕事を身につけてきたという方がいると思いますが、この方

ちが社会に復帰、職場に復帰した事実はあるのかどうか、この三点をお聞かせ願いたいと思います。

○民生部長（鈴木 力君） 福祉作業所の定員につきまして十九人ということになっておりまして、現在入所しております方が十七名、本来これは精薄者の施設でございますが、現在におきましては車いすの身体障害者の方も五人入っておりますでございます。福祉作業所につきましては一応社会福祉協議会の方に業務委託をしてこちらの方で一応やっていただいておりますでございます。

したがいまして、現在につきましては委託料ということで人件費あるいは必要な物件費につきましても予算で委託料として社会福祉協議会の方に支出しております。

それから、作業種目としましては、精薄者の方々につきましては前からでございますが、ポールベンの組み立て作業をやっております。それから車いすの身障者の方々につきましては七宝焼という焼き物これをやっております。

現在、十七名であと二名で定員いっぱいになるわけでございますが、県下におきましてもこの種の施設というものが各所にございますし、また市内の人でそういう施設に入っていられさる方もおるわけでございますので、定員との関係もございませうけれども、これからそういう方々に対しましては、いずれかの方法でどこかの施設に入所できるようなことで市の方でもあっせんしたいと考えております。

それから、福祉作業所に入所しまして三年、四年とたちましてある程度それぞれの作業につきましては覚えるわけでございますが、そういう中で精薄の方々につきましては社会復帰ということ

は非常にむずかしいことでございまして、ここに入所していただいて生活指導をするというのが主体でございまして。身体障害者の方につきましては七宝焼を本当に身につけて自活、自立できるというようなところまでいきまして、現在それらに従事しておる方もおります。

それから、作業の種目でございすけれども、これが一番悩みの種でございまして、仕事はございすけれども、箱の組み立てとかいろいろございすけれども、工賃も安いという問題もございすけれども、なかなか企業の方で提供してくださる仕事が少ないというのが実情でございす。幸いにいたしまして、現在ボールペンにつきましては初めからかなりの量を提供していただいておりますので、それによって作業指導しておるといのが現状でございす。

○一八番（流山源次郎君） よくわかりました。

私としては、せっかく手をつなぐ母の会等の要望を市長さんが取り入れまして福祉作業所をつくったという出発点を聞いておる次第でございす、ただそれをつくりまして、なにがしかの予算を組んでそこに入れたというだけで済ましてしまうということ、社会的に大きな問題があつて思いやりの愛情が足りないような気がするんですが、この点も考えて見れば、あれができてからあそこに入つた人の年齢等を見てみしても、普通の方だったら現在一家の主婦とか、一家のあるじとかそういった立場になる年齢の方が相当そこにいるようでございす、この方たちがやはり精薄者は精薄者なりに自分で少しでも収入を得て、それが何らかの形で自分の生活、家族の生活に直結していく、それは非常に

夢かもしれませんが、ある程度思いやりがあつたら、その近くまでも救つてやるのがわれわれとしての義務ではないかと思うんですが、この点を要望するとともに、漁協の予算も種まきだけで終わってしまった。また先ほど来何回も言うようですが、職員も生身の人間でございすので、このベースアップはただ国の言いなりになるということでないように切に希望いたしまして、私の質問を終わります。

○議長（林 豊君） 以上で、一八番議員君の質問を終わります。

三十分間休憩いたします。

午後二時四十三分 休憩

午後三時 十六分 再開

○議長（林 豊君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

一九番議員石井輝久君御登壇願います。

（一九番議員石井輝久君登壇）

○一九番（石井輝久君） 私は、今次定例会に提案されております二十一件の議案の審議に先立ち、当面する館山市政の中で特に重要と考える諸問題のうち、六点にしばって半澤市長に質問しようとするものであります。

本日の質問者七名の最後であります。しばらくの間お許しをいただき、以下順次質問に入りますが、半澤市長には簡明率直に答弁されますよう、まずもって要望いたします。

質問の第一点は、半澤市政が第三期目に入つた最初の年度すなわち昭和五十八年度の一般会計当初予算案が百二億五千三百三十七万一千円と、当館山市において初めて百億円の大台を越し、前年対比で十億二千二百八十八万九千円もふえ、一一・一％の伸張

をみていることを見るとき、県下でもまれに見る伸張率であり、まことに御同慶にたえないところであると率直に評価するにやぶさかではありませんが、反面、果たして背伸びをしているのではあるまいかといった憂いを覚えるという点について若干お伺い申し上げます。

私どもの任期はいままさに満了しようとしておりますが、願いますと、昭和五十四年四月いまだから四年前に当選させていただいたわけであります。その五十四年度当初予算は、昭和五十年の選挙に当選した議員によりまして当然のことながら同年三月議会で審議したのでありますが、予算額八十億二千三百八十七万六千円でありました。そのときの一時借入金の限度額は八億円。五十五年度当初予算で八十四億七千五百六十二万七千円、このときの一時借入金の限度額は同じく八億円でありましたが、これが昭和五十六年度当初九十一億七千六百七十四万九千円となるに及んで十億円にふえております。その伸び率は一・二五倍、この点についてはいままでも触れませんでした、今回は五十七年度当初予算九十二億三千四十八万二千円、一時借入金限度額十億円に引き続いたの一時借入金でありますので、若干お伺いしておきます。

それから、五十六年度、五十七年度と二カ年にわたって当市の当初予算の中には債務負担が姿を見せておらず、健全財政を堅持できたものと喜ばしく思っていたのでありますが、来年度予算案の中には二億三千八百八十五万二千円の債務負担行為が見られます。さらに市長の提案説明でも触れておられますが、来年度予算案で二億五千万円に上る財政調整基金費の取りくずしが見られる点、いささか予算財源に背伸びがありはしないかといった憂いを

免れないのであります。以上の各点についての私の憂いが杞憂に終わればまことに御同慶にたえない。そういう意味から質問するものであります。

質問の第二点は、市長もみずから本市の最重点施策とうたっておられる館山駅周辺市街地整備について、西口地区すなわち海岸に面した側の整備であります。地元との緊密な連携が必要なので協議会を設けたいと市長みずから申しておられます。確かにそのとおりであります。そこで先ほども質疑がありました、設けようとしておられる協議会の規模、内容、設立の時期等について御説明を承りたいのであります。

さらに、東口地区いわゆる現在の駅の正面方向であります。こちらの方は地元商業者による研究会ができています。そうであり、まことに喜ばしいことであります。市長は文字どおり新しい町づくりに積極的に参画し、その実現に努力してまいる所存だと申しておられますが、このすでにできたという研究会に市も積極的に参画するおつもりか、あるいは別の形で積極的に参画されるかについて御所見を承っておきたいのであります。

いずれにしても、勝浦市、茂原市なども駅を中心とする整備事業が具体化されようとしている際でもあり、別に競い合おうというわけではありませんが、一日も早い実現に願いをこめまして率直なる御答弁を期待し、三番目の質問に移ります。

質問の第三点は、下水路並びに排水路対策等についてであります。今次定例会に提案されております来年度予算案の中に北条中央下水路と南町下水路を予算化しておられることは、まことに時宜を得たものと高く評価するものであります。ことに中央下水路

は昔から大変な出水を見たのでありまして、かつては共產党の渡辺軍治郎議員さんが現在流れている水路にふたをかけて交通の便をよくし、あわせて通学児童の安全を確保すべきではないかと発言した記憶もありますが、いずれにしてもいよいよ全面的な改修に着手することになったわけでありまして。そこでその年次計画と事業の内容について詳細な御説明を承りたいのであります。またあわせて六軒町五町内の排水溝等中央下水路との整合の考え方もっていいものかどうかについても御所見を承りたいのであります。

また、豊房南条地区の宅地造成地から流出する雑排水は、水田と農業用水路に入って、その処理に頭をかかえているものも、手の施しようがないと聞いておりますが、これについての当局の対策はないものか、伺います。

また、コミュニティセンターのあの地域を通して将来宮城から大賀に抜けようとする都市計画街路についてであります。国道百二十八号線の県立安房南高等学校と北条小学校の東側をかすめ通って、いまの昭和橋に重なり富浦に抜けようとする計画路線は、市長を初めとする市当局や中村正三郎代議士の積極的な御協力と相まって建設省千葉国道事務所の配慮も得ることができ、このところ急ピッチで進展していると伺っており、喜ばしい限りであります。これが南へ向かっての延長の計画は今後どのように進展させるおつもりか、参考までお聞かせ願いたいのであります。二兎を追って一兎も得ずということにはもちろんなりませんでしょうが、一応質問申し上げるものであります。

次に、第四点として、目下建設中の博物館の内容の充実について

ての質問であります。市長の提案説明の中で、里見氏関連資料を中心とする南総の文化遺産を保存、保護し継承するとともに、文字どおり安房の歴史の殿堂が完成すると声高らかに施政方針で説かれたわけでありまして。そして開館に向け資料を充実したいと言われましたが、里見関連資料というのはどのくらいあって、安房の歴史の殿堂として、安房のどの時代にさかのぼっての歴史を収集されるおつもりか、南総の文化遺産として具体的にどういうものがあるのか、その一つ一つにお答えをたまわりたいのであります。私は歴史にきわめて深い興味を抱く者の一人としてその趣旨に全面的に賛成するがゆえに質問申し上げ、第五点の質問に入ります。

平砂浦地帯はわが館山市に残されている美しい海と緑の自然環境を二つながらにして具備しており、その後背地としてゴルフ場と砂山、また県の施設の南房パラダイスさらに勤労者いこいの村等の完成をみていることは申し上げるまでもありません。観光の最適地として他に例を見ないと断定をくだすことはいささかはばかることは申せ、とにかく隣の白浜町には観光客は押すな押すの盛況であることと考え合わせますとき、何とかしてここに旅館群を誘致しないしは建築することはできないものかどうか、かつて質問したこともありましたが、自然保護法による厳しい規制が国定公園内にあることも承知しておるのであります。すでに個人経営で元県の職員伊藤善樹氏が経営している平砂浦園について福島県内のある福祉法人がてこ入れて近代化しようとする計画があるとも仄聞するのであります。それと直接関連しての質問ではありませんが、ホテルを建てるという方向での観光開発を考え

る余地はないものかどうかということを質問します。

最後の六番目の質問であります。この質問は午前中の質疑にもありました。神余小学校の今後についてであります。

昨年六月二十一日に当議場で私は質問いたしました。市長はその答弁で、複式学級をしている現状について説明され、将来の展望に立って、やや狭過ぎる感はないけれども、豊房小学校に統合し、内容を高める以外にない旨を力説されました。

また、昨年十二月十三日には同僚古賀礼四郎議員も質問されました。これに対して安田教育長から神余小と豊房小の二校を統合し、適正規模に近づける必要性があることと、できれば五十八年度中に住民との話し合いを進め、五十九年四月一日から統合を発足させたい旨の答弁があったように記憶しておりますが、この答弁を額面どおり受け取ってよろしいかどうか、お伺いいたします。議会の答弁でありますから、よもや修正されるようなことはありませんが、率直なるお答えをわずらわしいのであります。

それにしても、午前中の質疑を聞いておりまして、住民とのコンセンサスを得るということは大変なことだと痛感させられました。住民との合意が得られるよう努力を重ねる必要があることは言を待つまでもありません。この点に関するところのお考えもあわせてお聞かせ願って私の質問を終わりますが、御答弁によりまして再質問申し上げます。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 石井輝久議員の御質問にお答えをいたします。

大きな第一点は、百億の大台を超した市財政の内容に背伸びの

憂いはないかという御質問でございますが、私はさきに施政方針でも申し上げましたとおり、明るく豊かな香り高い文化福祉都市の実現を理想といたしまして、住みよい環境づくり、福祉社会づくり、教育文化の環境づくり、産業の基盤づくりを主要施策として、都市形態の質的充実を重点に五十八年度予算を編成いたしました。

各事業別予算の計上にあたりましては緊急性、必要性等を厳しく選択し、さらに補助採択については関係機関に強く働きかけるなど積極的な財源確保に努めてまいりました。

まず、第一点の一時借入金につきましては、五十六年度から借入限度額を十億円と設定いたしておりますが、御案内のとおり一時借入金は一時期における収入、支出の資金の均衡を保つための措置として行いものでございます。歳入のうち特に例年国、県支出金あるいは起債等につきましては、その多くが各事業終了後の年度末から出納整理期間内の収入となるため、一時資金に不足が生ずる可能性がありますので、本年度におきましても出納事務を円滑に運営するため、借入金の最高限度額を十億円と設定したわけでございます。なお資金の運用といたしましては、各会計間の歳計現金の流用等を含めて弾力的に運用することにより、借入額を最小必要限度にとどめる努力をいたしてまいります。

次に、債務負担行為の設定につきまして申し上げます。債務負担行為は将来にわたり債務を負担する行為として予算で定めることになっておりますが、本年度新規にお願いいたします内容は、五十七年度から引き続き実施を予定する幹線農道の舗装整備事業と、五十九年度建設を予定する西岬西公民館建設工事費等ござ

います。

まず、農道整備事業につきましては、五十七年度九月議会におきまして債務負担行為と館山市農道整備事業分担金徴収条例の制定をお願いいたしました。本年度におきましても将来市道となり得る幹線道につきまして、環境整備の観点から事業費一億三千四百四十万円をもって実施しようとするものでございますが、これが資金といたしまして、館山市農業協同組合が農林漁業金融公庫から借り入れる資金と利子の償還につきまして五十九年度分から七十三年度までの間、補助しようとするものでございます。

西岬西公民館につきましては、本年度設計及び地質調査につきまして予算計上をいたしました。補助金の関係から来年度完成を予定しているものでございます。

財政調整基金につきましては、市財政の年度間の財源の調整を図り、健全な財政運営に資するために基金を積み立ててまいりましたが、五十八年度におきましては財政状況のきわめて厳しい中でもありますが、清掃センター及びコミュニティ施設の継続事業を初め大規模事業等を積極的に推進するための財源として財政調整基金を有効かつ弾力的に活用しようとするものでございます。

以上、御質問の三点につきまして御答弁申し上げましたが、五十八年度予算案は御案内のとおり百二億五千三百三十万円で前年度比一一・一％の増となっておりますが、厳しい財政状況を十分踏まえて、今後引き続き経費の節減、事務事業の見直し等を積極的に行い、健全財政の堅持を基本として適時、適切に財政運用を図ってまいります。

次に、館山駅周辺市街地整備に関する御質問でございますが、

その小さな第一点として、西口協議会の規模、内容、設立時期についての御質問でございますが、栗原議員の御質問にお答えいたしましたとおりでございますが、まず、規模といたしましては調査区域内権利者を中心に組織化するという方向で現在町内会ごとに役員選定も含め具体的に検討されているところでございます。次に、内容でございますが、地区の整備について区画整理事業の調査過程に応じて生ずる問題を地元と市がともに話し合い一つ一つ煮詰めて計画に反映させたいと考えております。

次に、設立の時期でございますが、この調査区域は商業地域を主とする北条海岸町内会と住居地区を主とする六軒町第七町内会にまたがっておりますが、この二町内会は用途地域としての性格を異にするため、最終的には協議会組織の一本化を目指しておりますが、とりあえず町内会ごとに組織化いたします。それぞれの町内会の規模等の検討が終わり次第、できるだけ早い機会に設立したいと考えております。

次に、御質問の第二点、東口の研究会についての御質問でございますが、研究会発足後地元主催、市主催あるいは共催という形式で町づくりについての問題をテーマ別に研究会や研修会を行っております。今後事業の早期着手、早期完了に向けて積極的に参画し、地元とともに努力いたす所存でございます。

次に、大きな第三点、下水路及び排水路対策についてでございますが、まず、南町排水路は市が事業費の三分の二を負担し、県事業として五十八年度から六十一年度まで四カ年で実施する計画でございます。改修箇所は蛭子神社前から中央保育園まで延長六百六十メートルで、排水路改良の要点としては水路底を下げ、断

面を大きくし、水路勾配を平均化して時間降雨強度六十二ミリメートルに対応できる水路といたしますとともに、水路構造をボックスカルバート仕上げとし、水路沿いの市道二百三号線の幅員が現在三・五メートルであるものを五メートルにあわせて整備し、児童の交通安全、付近住民等の利便を図るよう計画しております。

次に、中央排水路は本年一部実施中ですが、市単事業で五十七年度から六十一年度まで五カ年で実施したいと計画しております。改修箇所は鉄道線路際から早川スタンドまでの延長九百六十三メートルで、水路改良要点は南町排水路と同様水路底を下げ、断面を大きくし、水路勾配の平均化を図り時間降雨強度六十二ミリメートルに対応できる水路といたします。さらに構造はボックスカルバートを敷設し、最下流の地点から中央公園までの水路沿いにある市道八十八号線の幅員を現在三・五メートルから四・五メートルにあわせて拡幅整備する計画であります。

六軒町五町内の排水溝は、本年度道路改修にあわせ改修しておりますが、鉄道付近の水路改修は五十八年度事業で計画をいたしました。

なお、豊房南条地区の排水路は、県道館山大貫千倉線拡幅工事の際、道路側溝が整備されれば、市道豊房一号線にも側溝を設けこれと接続し、改善を図りたいと考えております。

次に、都市計画街路三、四、十一号線の国道百二十八号の交差点部分から大賀に至る路線整備計画のごさいますが、この区域のうち国道百二十八号から県道館山白浜線の交差点部分までを県事業として実施するよう要請いたしましたところ、五十四年度に県が航空測量を実施しております。なお、この区間については県

におきまして館山バイパス事業の進捗を勘案しながら建設を調査研究したいと言っておりますので、市ではさらに県に対し実現方の要請をしたいと考えております。

次に、大きな第四点、博物館の内容充実についてでございますが、里見氏関連の資料につきましては、昭和五十五年度博物館準備室を設置して以来調査を進めております。

ご存じのとおり、里見氏は江戸初期に倉吉に国がえとなっており、これに関する資料は必ずしも豊富とは申せませんが、調査の結果、文書を中心として木像、武器、什器等七十六件、百六十余点がリストアップされております。

また、安房の歴史を物語る資料についてですが、この地は古代より安房の中心地でございました。特に奈良時代には安房国分寺が置かれており、発掘調査の結果、当時の屋根がわら、土器等が出土し、現在市において保管いたしております。ほかに市内の遺跡からの出土品が市及び市内各所に保管されております。これらの資料を用いて原始、古代からの安房の歴史を組み立てていく予定でございます。さらに里見氏衰亡後の江戸時代及びそれ以降の館山市の歴史についても一部触れる予定でございます。

南総の文化遺産とりわけ里見氏に関する資料については広く安房全域に多数残されております。白浜町杖殊院に里見氏歴代の木像四体——義実、成義、義通、義豊でございますが、さらに千倉町円蔵院に里見義頼、義康等の書状、同じく小松寺に里見義康の書状が保存されております。丸山町石堂寺の多宝塔の露盤には里見義堯等の名が見られます。三芳村の延命寺には里見実堯の木像を初め家臣の所蔵と伝えられる槍等、同じく宝珠院には寄進者里

見義康の名の見える不動尊が安置されております。館山市内におきましては八幡神社に里見氏に関する棟札、刀剣等が保存されているほか、個人で貴重な資料を御所有の方々が数多くいらっしゃいます。

これらの資料について、それぞれに寄託、借用等のお願いをするほかに最新の技術を駆使し、複製等を作製して里見氏の歴史をわかりやすく説明できるよう心がけるつもりでございます。

次に、第五点、平砂浦地帯の観光開発についてでございますが、県道南安房公園線の海側地域は現状の保存を計画し、市は県とともに推進しておりますが、県道の山側地域につきましては自然公園法の規制範囲内で自然と開発との調和を図り、この地域にふさわしい内陸レクリエーション施設を整備、滞在施設の充実を進めていくことが望ましいと考えております。

質問の第六点、神余小学校の今後の対策についてでございますが、御指摘のとおり、将来的展望に立てば超小規模校であるため数々の教育上の困難点を除去するため、神余小学校と豊房小学校の両校を統合し、適正規模に近づける必要があると思います。

しかしながら、統合のためには地域住民の方々の全面的な御理解、御協力をいただくことがまず必要でございます。今後児童の幸せのため、忌憚のない率直な話し合いの努力を精力的に続けていく所存でございます。

以上、答弁を終わります。

○一九番（石井輝久君） 再質問をいたします。

第一点の財政についての再質問でございますが、一時借入金限度額の十億円につきましては、出納整理期間内の資金不足の際に

円滑な運営を期するためという御説明でございます。御説明によりまして了承をいたします。打ち切ります。

次の債務負担行為につきましては、私どもの理解ですと当年度予算内で予算化することができないために次年度以降の事業計画を債務負担行為としていくんだという理解の仕方でございますけれども、ただいまの御説明で西岬の公民館とか、将来市道になる農道舗装とか、実施しようとする事業そのものについては大変意義のあるものでございますから、この点に関する質問は打ち切ります。一層の事業の推進を期待しながら打ち切ります。

それから、財政調整基金でございますけれども、御説明によりますと、二億五千万円の取りくずしは大規模事業等に関連して取りくずしたのであるという御説明でございます。ただいまの御説明で清掃センター、それからコミュニティ施設これは事業を提示していただいておりますので、それにあわせて三ポイントとして大規模事業等の財源に充当するというところでございます。大規模事業等とは何であるかという点をお示しいただきたいと存じます。

第二点目の館山駅周辺市街地の整備についてでございます。これは協議会というのを西口では設置して、市が積極的に相談をしながら進めていくという御説明でございます。内容につきまして了承いたしました。ただ、御説明によりますと、できるだけ早い機会にこの協議会を最終的に一本化していきたいと、できるだけ早い機会というのはおおよそのめどはどのへんに置いておられるのか、この点を簡単にお聞かせを願いたいと存じます。その他につきましては一日も早い実現を期待しながら質問を打ち切ります。

それから、下水路、排水路対策等につきましては三番目の質問

でございます。これは特に先ほども御指摘申し上げましたが、これは数十年といっても過言ではございませんでしょうが、要するに鳥孝さんの前からかつての北条小学校、いまの中央公園あの周辺、過去の出水ははなはだしいものでございましたが、漸次整備されて今日を迎えております。来年度から始まるこの排水路計画はまことに画期的なものである。大いに期待をするものでございまして、御説明によりまして了承をいたしました。したがって、きわめて高く評価してその点に関する質問は打ち切ります。

それから、豊房の南条地区の排水処理のことにつきましては、県道の改修ということの働きかけ、これは市から県に積極的な働きかけをお願いしたいということを要望いたしまして、この点に関する質問を打ち切ります。

それから、南高のところから計画路線としてある館山の宮城地区を通過して大賀地区に抜ける計画路線でございますが、ただいまの御説明で県の事業として要望はしているということでございますけれども、これに対する簡単に見通しをお聞かせ願いたいと存じます。

それから、博物館の内容の充実についてでございますが、ただいま詳細に御説明を承ったわけでございます。ただ市長も触れておられましたが、里見関連資料といっても散逸しておるものも多いようでございますし、さらにさかのぼって奈良時代の安房の国分寺関係にいたしましても、発掘調査等でわずかに屋根がわらと土器のほんのわずかのものしか出ておりませんし、ですから市長がおっしゃるように、果たして安房の歴史の殿堂という内容を持ったものに仕立て上げることができるのかという実は危惧を抱い

ているわけであります。どうか内容を充実させていただきまして施政方針でお述べになったような全国に誇れるような安房の歴史の殿堂にふさわしいものになるような内容充実を期待するものであります。また、里見の遺族というのはいさぐらいおられると推定されておられるのか、ちょっと一点だけ伺いさせていただきます。

それから、平砂浦の観光開発についてでございますが、これは二度目でございます。大体当局の答弁はこんな答弁であろうかと実は予測をしておったのでございますが、私はあそこに旅館群がもし林立することが可能であるとするならば、ビーチホテルの倒産なんてことはおそらく免れ得たものと私自身は考えておるのでございます。お互いに競争しあってお客が殺倒するという白浜のような形で共存共栄できたんではなからうかと思うんですが、いかなせん環境庁の自然保護の厳しい規制のもとにあることは承知しております。これに関する私の考え方は私の考え方、しかし実際当局としてはむずかしい問題があるということは承知しておりますので、この点に関する質問は打ち切ります。

それから、最後の神余小学校でございますけれども、これは午前中の質疑にありましたけれども、実は私の質問は地元住民との合意の努力の必要性について伺っておったのでございますが、これに対する御答弁はいただきました。その前に私の過去の質問、古賀議員の昭和五十七年十二月十三日の質問を引用いたしまして額面どおりこの答弁を受け取ってよろしいか、こういう聞き方をしたわけでございます。それに対する的確な御答弁はただけなかったように私自身は受け取っておるのでございますが、その点

に対します教育長さんから再度御答弁をいただきたいと存じます。

以上、再質問申し上げます。

○総務部長（鶴岡卓樹君） 財調の取りくずしについてお答えいたします。

大規模事業等の財源のお話ですが、御案内のようにごみとコミュニティは大事業でございまして、そのほかに五十八年度事業といたしましては館山幼稚園、豊津地区の学習施設そういうものを考えております。

○経済部長（山田俊康君） 協議会の関係でございすけれども、統合の時期はいつ頃かということでございますが、北条海岸町内会、それから六の七町内会それぞれに当初できる。北条海岸町内会が概して飲食店等を主体とした集まりであり、六の七が住居地域、あそこに居住する人が主体であるということ等もあって、直ちに一本化というのが地元の空気としては困難性がある。理解が深まった時点で、それは一年とか、一年半とかいう非常に市としては短い期間のうちに統合を図りたいというふうに考えております。あくまでも地元の合意ということを基本に考えております。

それから、百二十七号バイパスがぶつかったところから、館山白浜線にぶつかるまでの計画街路でございすけれども、県の職員等との話し合いの中では、当然バイパスが完成すると同時にできるとなおいんだけれども、県の財政の問題等もあるので、とにかく努力はするよというようにございまして、公式の見解として出ておりますのは、先ほど市長からお答え申し上げましたように調査研究していくんだ、現実の問題としてはもう航空測量等もやってそれらの資料にしているわけでございます。今後と

も実現方の要請を強力に県に働きかけてまいりたいと考えております。

○教育長（安田豊作君） 博物館の内容充実について、里見の遺族がどのくらいあるんだ、こういうような御質問であります。里見家は忠義の死亡によって断絶というようになっておりますけれども、遺族そのものはまだ続いているようにも聞いておりますが、的確な把握はしておりません。家臣を含めて里見会というようなものがあって、その人たちとの接触もし、その人たちの持っている遺品といひますか、文化財の調査等を進めているというのが現実でございます。

それから、第六になりますか、神余小学校の今後の対策について石井議員さんの質問、それから古賀議員さんの質問に答えて、五十八年度中には地域のコンセンサスを得るための活動をし、五十九年四月一日統合にもっていくというように答弁したと、こういうふうにおっしゃっておりますが、これについては古賀議員さんがこういうふうにいけないかという質問に対して、私はできればそういうふうにしたいと、こういうふうに申し上げましたので、まず私としての希望的条件こういうふうに解釈していただきたい。なお市長から答弁のあったように今後精力的な説得工作といひますか、話し合いを進める。こういうことでございます。

○一九番（石井輝久君） 神余小学校につきましては、のちにまた御質問申し上げます。

ちょっと順序が不同になりますけれども、ただいま御答弁を山田経済部長からいただきました。駅前周辺の整備に関する御答弁につきましては、ただいまの御答弁で了承をいたしました。一層

の御精進を切に期待をいたしまして打ち切ります。

それから、路線名で数字でいうと理解の仕方がむずかしゅうございますが、南高のところから大賀の方に抜ける路線は御説明で大体わかっておりますが、私の理解の仕方です。再度伺いしてみたいと思います。

それは、どういうことかといいますと、確かに線は書かれていくけれども、いま富浦に向かうあの路線と違って、県に要望はしてある、事業実施計画はまだない。したがって、いつ実現するかその可能性については、はるか遠い将来であるという私の理解の仕方です。私はいかにどうか。私はそういう理解の仕方をしていくんです。私はそう理解をいたしまして、この点に関する質問は打ち切ります。

それから、里見の関係につきましての再質問を申し上げますが、いま実際には教育長さんの手を離れて博物館準備室の方に移っておりますから、教育長さんの答弁を求めるのは実際のところ無理であろうかと私自身思っております。

倉吉で二代將軍時代ですか、江戸から転封されて行って、二十九歳で第十代の忠義公が向こうの地でなくなっており、それをもって里見家は断絶されたということでございますけれども、現在の確に遺族について把握されてないということでございますが、東京都内だけでも里見姓を名のって、私どもはかつての安房の地の里見の末裔であると言っている人が数百人を下りません。あるいは千人を超すかもしれません。金沢市には里見町という町名がある。そこにわれこそは安房の里見の末裔であると自負して生活している人がおります。さらにまた九州の大分県にも里見姓を名の

って安房の里見の末裔であると言っておる方もおられます。かなり常識——そこまではないかもしれませんが、教育長さんの手もとにはございませんでしょうけれども、こういうことも調査の対象にされて、そうして安房の歴史の殿堂たるにふさわしい内容の充実に努めていただきたいものなということを考えての質問でございました。

もちろん、それだけではいけないと、市長の先ほどの答弁にもありましたけれども、確かに千葉県にはかつて下総国分寺、上総の国分寺、安房の国分寺三カ所あったことは歴史上確かでございます。歴史の殿堂たるにふさわしいというならば、なにかこういったことも合わせ考えて、もちろん先ほどの御説明に触れてありましたから、それ以上は申しませんが、内容の充実に一層努められるように要望をいたしまして、要望だけで再質問を打ち切ります。

それから、一点目の財政調整基金の御説明をいただいたんですが、財政調整基金の運用につきましては、館山市には館山市財政調整基金条例というのがあることは申すまでもございません。その条例はわずかに七条しかありませんが、この調整基金については議会の審議を必要といたしません。個々の運用については条例に基づいて運用していけばいい。私どもはそれは容喙はできない。それは承知しておりますが、ただしこの条例によりますと、六条で基金の運用、基金の処分について項目を上げて規制しておるはずでございます。ごみとか、コミュニティとか、館山幼稚園とか、豊津地区の学習施設こういったものはこの六条のどの項目に該当しているとお考えでしょうか。二億五千万の取りくずしは、ただ

いまの御説明で内容につきましてはわかりましたけれども、一体どういう根拠に基づいて、六条の第何項でこれを取りくずしたのか、御説明を承りたいと思います。

○総務部長（鶴岡卓樹君） 御説明いたします。

御案内のことだと思えますけれども、この条例を制定しました根拠は地方財政法四条の三がございします。そこで年度間の財源の調整を基本的に定めてございします。運用につきましては地方自治法がございします。その趣旨をとりまして当基金条例を定めてございします。そこで、御質問の第六条の何項かと御質問ですが、第三項に当たります。

○一九番（石井輝久君） 三項といひますのは、第六条第三項といひのは「緊急に実施することが必要となった大規模な土木工事その他の建設事業の経費その他必要やむを得ない理由により生じた経費の財源に充てる」災害とは言わず、緊急に実施することが必要となった大規模な土木工事これは予算化して一般財源で計上していくべき性質のものではないでしょうか。いま予算化してあるのは緊急に必要な大規模な工事とは言わないんですか。これは予測ができないくらいに緊急事態が大きな土木事業で生じた場合、年度事業で事業そのものは緊急かもしれないけれども、そういう事態はもう予測できていたわけでございましょう年次計画ですから。だから、ちょっと三項は拡大解釈に過ぎはしないかなというように気がするんです。一般財源でやるか、あるいは起債で事業を進めるか、コミュニティにしてもそうです。豊津学習施設にしてもそうです。緊急に生じた事態とは言えないと思うんです。当然のこととして、大規模事業は一般財源で計上し、あるいは一

般財源で不足だったら債務負担行為であり、あるいはまた起債であり、そういう事業の仕方を進めるべきものであって、財政調整基金を二億五千万取りくずすという方法によって事業を進めるのはちょっと拡張解釈に過ぎはしないかという私の認識の仕方なんですけれども、とにかく議会が容喙できないことであるだけに、私はこの際きちんとした考え方に立ちたいような気がするわけでございします。ですからあえて御質問申し上げるんですが、たとえば大規模事業等とは何だという聞き方をしたら、ごみであり、コミュニティであり、館山幼稚園であり、豊津学習施設であると、この四つを挙げた。この四つは緊急事態によったというよりも当然予測事業計画に基づいて実施できる大規模土木事業ということができようかと思うんです。この点についての御見解を承りたいと思います。

○総務部長（鶴岡卓樹君） 先ほど、舌足らずで申しわけございませんでした。

地財法四条の三に基本的な主旨といひのがあります。そこでは先生のおっしゃいました緊急に実施することが必要となった大規模云々、この条項の解釈が実はございします。その内容を見ますと「必要やむを得ない理由により生じた経費」必要やむを得ない理由は何だと、その解釈でございしますが、その解釈は「地方公共団体が自主的に判断すべきものである」と、その前提がございまして、いわゆる公共事業だとか、あるいは道路整備、港湾整備、治山治水の計画等もろもろの計画のかんりの部分が必要なものである。土木その他の建設事業の経費と、そういうことで大規模な土木工事そのままでなくて、まだ続いております。「その他の建

設事業の経費」そういうことで私の方は続けて解釈してございませうので、投資的経費的なものも入るんだ。それは取りくずしてよろしいと、しかもその判断は地方公共団体が自主的に判断すべきである。そういう見解でございます。

○一九番（石井輝久君） これは解釈の問題で、県から出向されて来られた総務部長の御見解でございましょうけれども、あえて御質問申し上げましたのは、要するに冒頭申し上げましたように百億を超える大台で年間予算を組まれる、このことはまことに御同慶にたえないわけなんです。館山市も百億予算を一般会計で持てるようになった。私はそれは本当に心からお喜び申し上げるわけです。

ただ、その内容で若干二億五千万の取りくずしをしたり、債務負担行為をしたりというような、若干背伸びがありはしないかという前提のもとに第一点の質問をしたわけでございます。しかし先ほどの一時借入金にしても、債務負担行為につきましても、私は御説明で了承しているわけでございます。二億五千万の取りくずしがなければ予算規模は九十億円台でございましょう。そういうところで若干の背伸びがあったかな、不法行為、違法行為あるいは適法でない行為によって財政調整基金を取りくずしたとはもちろん理解はいたしません。

したがって、ただいまの総務部長の御説明で了承いたしますが、今後とも財政調整基金の運用につきましては、格段の配慮のもとに行われますように切に希望いたします、質問を終わります。

○議長（林 豊君） 以上で、一九番議員君の質問を終わります。

以上で、通告者による一般質問を終わります。

会議日程の変更

○議長（林 豊君） この際、会議日程についてお諮りいたします。明十一日の会議日程は本日に引き続き行政一般通告質問となっておりますが、本日終了いたしましたので、明十一日は休会といたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって、明十一日の会議日程は変更され、休会と決定されました。

散

会 午後四時十八分散会

○議長（林 豊君） 本日の会議はこれにて散会といたします。

次会は、三月十四日午前十時開会とし、その議事は一般議案及び補正予算案の審議といたします。

この際、申し上げます。一般議案及び補正予算案に対する質疑の通告の締め切りは三月十二日正午まで、昭和五十八年度各会計予算案の質疑の通告締め切りは三月十四日正午まででありますので、申し添えます。

○本日の会議に付した事件

一、行政一般通告質問

二、会議日程の変更